令和 3 年～5 年度厚生労働省先駆的保健活動交流推進事業

自治体保健師人材確保のための
魅力・情報発信事業

実施報告書

令和 6（2024）年 3 月

公益社団法人　日本看護協会

目次

Ⅰ. はじめに 1
1. 事業実施背景 1
2. 本報告書について 1
Ⅱ. 事業報告 2
1. 2021 年度 自治体保健師の仕事説明会「ここでしか聞けない保健師の仕事のコト」 2
１） 企画 2
２） 参加者からの事前質問（申込時） 4
３） 開催結果 4
2. 2022 年度 自治体保健師の仕事説明会「ここでしか聞けない保健師の仕事のコト」 6
１） 企画 6
２） 参加者からの事前質問（申込時） 9
３） 開催結果 10
3. 2023 年度 自治体保健師の活動内容や魅力発信のためのイベント「地域で働く保健師の魅力～自治体保健師に聞いてみよう」 12
１） 企画 12
２） 参加者からの事前質問（申込時） 15
３） 開催結果 15
Ⅲ. イベント開催のためのポイント整理 17
1. 開催時期 17
2. 対象者 18
3. 開催方法 19
4. 参加者の知りたいこと 21
5. プログラム 23
6. 実施体制 29
7. 参加者募集の工夫 30
8. 参加自治体募集の工夫 32
9. 運営の工夫 35
10. 予算の確保 37
Ⅳ. 今後の自治体保健師人材確保に向けた魅力・情報発信の方策について 38
1. 自治体保健師確保における看護協会と自治体の役割 38
Ⅴ. まとめ 39
別添 40
1. 2021 年度 自治体保健師の仕事説明会「ここでしか聞けない保健師の仕事のコト」 41
2. 2022 年度 自治体保健師の仕事説明会「ここでしか聞けない保健師の仕事のコト」 44
3. 2023 年度 自治体保健師の活動内容や魅力発信のためのイベント「地域で働く保健師の魅力～自治体保健師に聞いてみよう」 49
１） 参加者アンケート結果 49
２） 相談ブースアンケート結果（自治体、なんでも相談ブース） 58

３）　都道府県看護協会事業報告書 68
参考資料 80
■県協会独自の周知媒体資料（奈良県看護協会） 81
■プログラム（京都府看護協会） 81
■自治体保健師の活動紹介・ＰＲ（富山県看護協会） 82
■ナースセンターブース（宮崎県看護協会） 82
■スタンプラリー（京都府看護協会） 82
■相談時間を増やす工夫（奈良県看護協会） 83
■会場レイアウトの工夫（石川県看護協会） 83
■相談ブース装飾の工夫（福井県看護協会、岩手県看護協会、岐阜県看護協会、奈良県看護協会、山梨県看護協会、神奈川県看護協会） 84
■参加できなかった自治体の情報提供（山梨県看護協会） 85
■関連資料の配布（石川県看護協会） 85

Ⅰ. はじめに

1. 事業実施背景

少子高齢化が進み、2025 年に団塊の世代が後期高齢者となるわが国では、人々の地域での暮らしと療養を支える地域包括ケアシステムの推進が打ち出されてきた。療養の場の地域への移行が進められ地域で暮らす人々の健康課題が多様化・複雑化する中で、自治体保健師には、資源や仕組みを最大限活用しながら地域全体の課題を解決し、より健康な地域づくりを進める役割をより一層発揮することが求められている。自治体保健師の役割は、対象の多様性、内容の複雑さ、業務量の全てにおいて拡大の一途をたどっている。

それにも関わらず、人材確保にあたって慢性的に困難な状況が続く地域もあり、安定的な人材確保や職場への定着が課題となっている。日本看護協会（以下、本会）が平成 30 年度に行った「自治体における保健師の人材確保モデル開発事業」の報告書では、自治体保健師人材確保の課題として、「保健師養成機関等学生への情報発信不足」等が課題として挙げられた。

これらを踏まえ、本会は厚生労働省の先駆的保健活動交流推進事業として、自治体保健師の活動内容や魅力を発信する取り組みを進めてきた。2019 年度には、自治体の担当者向けに保健師確保に取り組む必要性や取り組み策をまとめた「自治体保健師の人材確保ガイド」を作成し、配付した。翌年度には、看護学生や保健師資格保有者向けに、自治体保健師の活動や仕事の魅力を紹介する動画「健康なまちづくりを担う保健師　都道府県保健師・市町村保健師になろう」とリーフレット「地域の健康をつくる～自治体保健師になろう～」を作成し、周知を行った。

そして、2021 年度及び 2022 年度には、オンラインイベント「自治体保健師の仕事説明会」を行った。初年度は約 900 名、翌年度は約 2300 名の申込があり自治体保健師への関心が高いことが伺え、内容についても「参考になった」という評価が大半を占めた。この参加者にどのような機会が自治体保健師への就職を考えるきっかけになるかを聞いたところ「対面で保健師に質問・相談ができる機会」「地域別・自治体別の情報提供」が上位となった。自治体保健師について身近な地域で質問できる機会のニーズがあることがわかった。

このような背景を踏まえ、2023 年度は、全国会場での参集イベント「地域で働く保健師の魅力～自治体保健師に聞いてみよう～」を県協会の協力のもと開催した。

2. 本報告書について

本報告書は、これまでの事業内容を整理し、今後自治体保健師の人材確保に向けた魅力情報発信イベントを行う際に、実施者の参考となるような情報を提供することを目的とする。そのため、本会が行ってきた自治体保健師人材確保事業のうち、2021 年度から 2023 年度にかけて実施した自治体保健師の魅力情報発信イベント（以下、魅力情報発信イベント）についてまとめている。

「Ⅱ. 事業報告」では、これまで実施した魅力情報発信イベントの概要と結果を整理した。

「Ⅲ. ポイントの整理」では、関係者からの意見も多く得られた 2023 年度事業を中心に、参加者及び参加自治体の募集方法やプログラムの工夫などについてまとめた。あわせて、今後の自治体保健師の人材確保に関する関係者からの意見を整理している。

本報告書が、自治体保健師の人材確保策を検討する際の一助となれば幸いである。

II. 事業報告

1. 2021 年度 自治体保健師の仕事説明会「ここでしか聞けない保健師の仕事のコト」

本会は自治体保健師の人材確保に向けて、その活動内容や魅力を伝える動画やリーフレット等の周知用媒体を作成し、間接的に情報発信を行ってきた。2021 年度においては、参加者のニーズを把握する目的からも、より直接的かつ具体的な情報を発信する方法としてイベントを実施することとした。

1） 企画

(1) 対象者：看護学生、保健師資格保有者

(2) 日時：2021 年 4 月 24 日（土）11 時 00 分～15 時 30 分
参加対象となる学生や社会人にとって休日の方が参加しやすいこと、学生の場合は就職活動前の開催が効果的と考えられたことから、上記日程とした。

(3) 開催方法：Zoom Meetings を活用した WEB 開催
新型コロナウイルス感染症の流行により対面開催が難しく、全国から広く参加を受け付け可能な方法とした。

(4) 申込者数：902 名〔内訳〕「在学中」848 名（94%）、「既卒者」54 名（6%）

(5) プログラム

・他業種の就職ガイダンスも参考に検討し、対象者が求めている内容となるよう、また保健師の存在がリアリティをもって伝わるようプログラムを構成した。

・パネルディスカッション「保健師になって良かったこと、悩んだこと」では、若手、中堅、ベテランといった様々な年代の自治体保健師が登壇できるよう調整した。

・座談会は、登壇者の立場によって聞きたい内容が異なると考え 6 つの部屋を設定し、また、複数の部屋に参加できるよう前半と後半に分けて開催した。登壇者への質問は申込時に受け付け、登壇者に共有し進行時の参考とした。

時間	プログラム	登壇者（敬称略、2021 年当時）
11:00-11:05	開会挨拶	公益社団法人 日本看護協会 会長 福井 トシ子
11:05-11:30	ビデオメッセージ 「今、自治体保健師に求められていること」	厚生労働省健康局 局長 正林督章 全国衛生部長会 会長 中澤 よう子 全国保健所長会 会長 内田 勝彦 全国保健師長会 会長 清田 啓子 一般社団法人全国保健師教育機関協議会 会長 岸 恵美子
11:30-11:45	講演 「自治体保健師のキャリアパス、条件、待遇」	愛知県衣浦東部保健所健康支援課 課長補佐 中根 恵美子

時間	プログラム	登壇者（敬称略、2021 年当時）
11:45-12:15	映像視聴 「健康なまちづくりを担う保健師 都道府県保健師・市町村保健師になろう」 （令和 2 年度 厚生労働省 先駆的保健活動交流推進事業）	
12:15-13:15	パネルディスカッション 「保健師になって良かったこと、悩んだこと」	進行： 北九州市保健福祉局新型コロナウイルス感染症医療対策部 保健対策担当課長 正野 のぞみ 演者： 秦野市福祉部 参事（兼） 高齢介護課長 石川 貴美子 大津市健康保険部保健所保健予防課 精神・難病支援係 係長 平田 浩二 川崎市こども未来局北部児童相談所 主任 高田 加奈子 横浜市鶴見区福祉保健課健康づくり係 保健師 藤富 絵里香 福岡県糸島保健福祉事務所 技師 川﨑 哲
13:50-15:20	座談会「現役保健師と話そう！」 ※ZOOM のブレイクアウトルーム機能で開催 ※前半 40 分、後半 40 分	
15:20-15:30	閉会式 「“自治体保健師”を目指す皆様へのメッセージ」	厚生労働省健康局健康課保健指導室 室長 五十嵐 久美子
15:30	閉会挨拶	公益社団法人 日本看護協会 常任理事 鎌田 久美子

【座談会「現役保健師と話そう！」】

各部屋にファシリテーター（本会職能委員）が入室し、座談会を進行した。

部屋	担当
①若手保健師に質問できる部屋	横浜市鶴見区福祉保健課健康づくり係 藤富 絵里香
②看護師から保健師に転職した人に質問できる部屋	六戸町福祉課 保健師 種市 雅
③ベテラン保健師に質問できる部屋	三重県津保健所 副所長兼保健衛生室長 丸山 明美

④都道府県の保健師に質問できる部屋	愛媛県保健福祉部 健康衛生局健康増進課 感染症対策係 主任 千羽 明日実
⑤市町村保健師に質問できる部屋	三重県名張市 福祉子ども部 地域包括支援センター 佐藤 莉子
⑥島しょ町村の保健師	十島村役場住民課 村民室長 本砥 貴子

2 ） 参加者からの事前質問（申込時）

申込時に質問を受け付けたところ、参加者の質問内容の傾向は以下のとおり整理された。

分類	主な質問
やりがい・きっかけ・良かった事	自治体保健師を目指したきっかけ/転職した理由/今の自治体を選んだ理由/保健師になってよかったこと、やりがい/保健師として働く上で大事にしていること/今後のビジョン等
勉強・試験・面接対策	就職活動の進め方/就職試験の準備・当日について/国家試験対策/実習、国家試験、就職試験の両立の方法/学生時代勉強しておいたほうがよいこと　等
仕事・教育・職場について	保健師の業務内容/就職してからの不安、就職してから大変だったこと/教育体制/自己研鑽等について/キャリアプラン、ワークライフバランス、福利厚生　等
経験・スキル等	病院での実務経験や臨床経験が活かされたこと/自治体保健師に必要なスキル、経験/自治体保健師になるまでの道のり等

3 ） 開催結果

(1) 参加者数

・全体（当日時間別ログイン者数）：750 名

・座談会：

部屋	前半（名）	後半（名）
①若手保健師に質問できる部屋	115	66
②看護師から保健師に転職した人に質問できる部屋	106	68
③ベテラン保健師に質問できる部屋	19	50
④都道府県の保健師に質問できる部屋	109	84
⑤市町村保健師に質問できる部屋	176	220
⑥島しょ町村の保健師	12	22
計	537	510

(2) プログラムの主な内容

①パネルディスカッション「保健師になって良かったこと、悩んだこと」

進行役のもと、参加者の質問傾向を踏まえ「都道府県と市町村の違い」、「新型コロナウイルス対応で変わったこと」、「保健師になって悩んだこと、どうやって乗り越えたか」、「保健師の仕事のやりがい・魅力」、「これから保健師になる人へのメッセージ」について、パネリストが回答した。「都道府県と市町村の違い」について、市町村の保健師からは「直接市民に関わり、住民の力を借りながら地区の課題を解決する」ことが挙げられ、都道府県の保健師からは、「体制整備や地域関係者とのネットワーク構築が主だが、医療機関への指導等住民に関わる機会もある」ことが説明された。「新型コロナウイルス対応で変わったこと」については、母子や高齢者の交流の場がなくなり孤立やフレイルが進んだため、オンラインでの面会の場を設けるなど状況に応じて新たな取り組みがなされていることが紹介された。「保健師の仕事のやりがい・魅力」については、「長い時間軸で対象者に関わることができ、集団・個人へのアプローチが可能」なこと等が語られた。

②座談会「現役保健師と話そう！」

ファシリテーターが事前質問を参考に問いかけ、各部屋の担当者が自身の経験を交えながら回答した。それぞれの部屋で取り上げられた質問が異なるが、「保健師や所属自治体を目指したきっかけ」は多くの部屋で語られ、看護師から転職した保健師からは、「病棟での経験を経て、病気を予防することでその方のQOL向上に貢献したい」ことが挙げられ、市町村の保健師からは「住民により近いところで保健師になりたいと学生の時から思っていたため」といった回答があった。また、「やりがい」について、ベテラン保健師からは「対象者に寄り添った個別支援ができ、蓄積すれば政策・計画作りに役立てられること」「地域の健康度を高める旗振り役として住民とともに進んでいくこと」などが挙げられ、島しょ町村の保健師からは「訪問指導や健康相談だけではなく長いストーリーという形で人生に関われること」といった回答があった。部屋によっては、チャット欄にも質問が寄せられ、担当者が対応。

2. 2022 年度 自治体保健師の仕事説明会「ここでしか聞けない保健師の仕事のコト」

前年度イベントを実施した結果、申込者数上限に達し、「参考になった」という回答が多く得られた。本年は人材確保に困難が伴う小規模自治体の情報発信を目的の一つとし、昨年度評価の高かった座談会を拡充してエリア別に魅力を発信する時間を設けた。

1） 企画

(1) 対象者：看護学生、保健師資格保有者

(2) 日時：2022 年 5 月 21 日（土）13 時 00 分～16 時 30 分

2021 年度の実施結果を踏まえ、春季、休日の開催とした。

(3) 開催方法：Zoom を活用した Web 開催（Zoom Webinars と Zoom meetings を併用）

依然として新型コロナウイルス感染症の流行により対面開催が難しく、前年度イベントのアンケート結果からも web 開催を求める声が多かったことから web 開催とした。

(4) 申込者数：2,323 名〔内訳〕「在学中」2,218 名（95%）、「既卒者」105 名（5%）

(5) プログラム

・「パネルディスカッション」は前年度の評価が高かったため、引き続き同じテーマとし、若手、中堅、ベテランの自治体保健師が登壇できるよう演者を調整した。

・同様に評価が高かった「座談会」については、参加者の関心に近い自治体の話を聞く機会となるようエリア別の部屋を新たに設けた。前年度同様、登壇者への質問は申込時に受け付け、登壇者に共有し進行時の参考とした。

時間	プログラム	登壇者（敬称略、2022 年当時）
13:00-13:05	開会挨拶	公益社団法人 日本看護協会 会長 福井 トシ子
13:05-13:25	来賓挨拶	厚生労働省健康局健康課保健指導室 室長 五十嵐 久美子 全国保健師長会 会長 松本 珠実 一般社団法人全国保健師教育機関協議会 会長 岸 恵美子
13:25-14:10	パネルディスカッション テーマ「保健師になって良かったこと、悩んだこと」	進行： 名古屋市総務局職員部安全衛生課 主幹 佐藤 かおり 演者： 熊本市役所健康福祉局 保健衛生部 健康づくり推進課 副課長 木庭礼子 東京都文京区保健衛生部・文京保健所予防対策課精神保健係主任 柳瀬裕貴 島根県健康福祉部健康推進課がん対策推進室 主任保健師 宇都宮 拓也 大阪市旭区保健子育て課（保健活動） 上野 輝実

時間	プログラム	登壇者（敬称略、2022 年当時）
		青森県六ケ所村保健相談センター 保健師 野呂 一葉
14:10-14:15	参加者 座談会の各部屋に移動	
14:15-15:15	座談会 1 テーマ「うちの地域の魅力、保健活動の魅力をお伝えします！」 ※前半 30 分、後半 30 分	※ZOOM のブレイクアウトルーム機能で開催
15:15-15:25	休憩	
15:25-16:25	座談会 2 テーマ「現役保健師と話そう！聞いてみよう！」 ※前半 30 分、後半 30 分	※ZOOM のブレイクアウトルーム機能で開催
16:25	閉会挨拶	公益社団法人 日本看護協会 常任理事 鎌田 久美子

【座談会 1】テーマ「うちの地域の魅力、保健活動の魅力をお伝えします！」

部屋	担当	ファシリテーター
1. 北海道・東北エリア	青森県六ケ所村保健相談センター 保健師 野呂 一葉	札幌市東区保健福祉部健康・子ども課（札幌市東保健センター） 健やか推進係長 小澤 智絵
2. 関東・甲信越エリア	東京都多摩立川保健所保健対策課地域保健第一担当 主任 寺山 奈美	栃木県県東健康福祉センター 地域保健部長補佐（総括） 富田 倫子
3. 東海・北陸エリア	福井県丹南健康福祉センター 部長 濱坂 浩子	名古屋市総務局職員部 安全衛生課 主幹 佐藤 かおり
4. 近畿エリア	堺市健康福祉局 健康部 健康推進課 疾病予防係 係長 川本 喜和	堺市 健康福祉局 健康部 部理事 東口 三容子
5. 中国・四国エリア	島根県健康福祉部健康推進課がん対策推進室 主任保健師 宇都宮 拓也	愛媛県宇和島市役所 保健福祉部 保険健康課 主任 福島 貴子
6. 九州エリア	長崎県壱岐市保険課地域包括支援センター 保健師 吉永 英志	長崎県佐々町役場 多世代包括支援センター 参事 江田 佳子

【座談会 2】テーマ「現役保健師と話そう！聞いてみよう！」

部屋	担当	ファシリテーター
1. 市・区の保健師に質問できる部屋①	名古屋市総務局職員部 安全衛生課 主幹 佐藤 かおり	愛媛県宇和島市役所 保健福祉部 保険健康課 主任 福島 貴子
2. 市・区の保健師に質問できる部屋②	大阪市旭区保健子育て課（保健活動）上野 輝実	札幌市東区保健福祉部健康・子ども課（札幌市東保健センター） 健やか推進係長 小澤 智絵
3. 町村の保健師に質問できる部屋	青森県六ケ所村保健相談センター 保健師 野呂 一葉	長崎県佐々町役場 多世代包括支援センター 参事 江田 佳子
4. 都道府県の保健師に質問できる部屋	島根県健康福祉部健康推進課 がん対策推進室 主任保健師 宇都宮 拓也	福井県丹南健康福祉センター 部長 濱坂 浩子
5. 島しょ町村の保健師に質問できる部屋	長崎県壱岐市保険課 保健師 吉永 英志	東京都八丈町 福祉健康課 八丈町 子ども家庭支援センター 保健師（主事）折山 瑠美
6. 看護師から保健師に転職した人に質問できる部屋	堺市健康福祉局 健康部 健康推進課 疾病予防係 係長 川本 喜和	栃木県県東健康福祉センター 地域保健部長補佐（総括） 富田 倫子

2） 参加者からの事前質問（申込時）

申込時に質問を受け付けた。前年度の結果を踏まえ、「経験・スキル等」「勉強・試験・面接対策等」「やりがい・きっかけ・良かった事」「仕事・教育・職場」「その他」の選択肢を選んだ上で質問を入力してもらった。参加者の質問内容の傾向は以下のとおり整理された。

分類	主な質問
経験・スキル等	信頼関係を築くためにコミュニケーションの際に気をつけていること/看護師の臨床経験があることのメリット・デメリット/スキルアップの方法　等
勉強・試験・面接対策等	ゆかりが無い自治体をうける際の試験対策/自治体毎の試験や面接の違い/どのような勉強をいつから始めたか/働きながら勉強することはどれくらい大変だったか　等
やりがい・きっかけ・良かった事	自治体保健師を目指したきっかけ/その地域ではたらいてよかったこと/今働いている自治体に決めた理由/所属自治体の保健師としてのやりがいや業務中に楽しいと感じること/今までで最も印象的な仕事/看護師から保健師に転職した理由等
仕事・教育・職場	１日の仕事の流れ/実際にどのような保健活動を行っているのか/都道府県と市・区の保健師の業務内容の違い/政令指定都市や中核市についてよかったことや大変だったこと/その行政特有の仕事/働く地域毎の特徴/高齢化が進む地域での仕事について/地域の制度やシステム面にどの程度関与できるのか/1 年目の教育体制について/新任期の仕事内容/他職種との関わり/看護師との業務・勤務形態の違い　等
その他	コロナ禍で大変だったこと/コロナ禍において仕事内容は変わったか/コロナ禍での教育体制について　等

3 ） 開催結果

(1) 参加者数

・全体（当日時間別ログイン者数）：1,768 名

・座談会 1：

部屋	前半（名）	後半（名）
北海道・東北	287	158
関東・甲信越	592	543
東海・北陸	171	279
近畿	216	341
中国・四国	256	164
九州	246	150
計	1,768	1,635

・座談会 2：

部屋	前半（名）	後半（名）
1. 市・区の保健師に質問できる部屋①	500	201
2. 市・区の保健師に質問できる部屋②	435	200
3. 町村の保健師に質問できる部屋	91	170
4. 都道府県の保健師に質問できる部屋	238	410
5. 島しょ町村の保健師に質問できる部屋	43	58
6. 看護師から保健師に転職した人に質問できる部屋	306	467
計	1,613	1,506

(1) プログラムの主な内容

① パネルディスカッション「保健師になって良かったこと、悩んだこと」

進行役のもと、所属自治体規模や年代が異なる保健師 5 人が意見交換を行った。質問項目は、「保健師を選んだきっかけ」、「保健師の仕事をしている中で良かったこと辛かったこと」、「自治体保健師になって良かったこと、続けられた理由」、「これから保健師になる人へのメッセージ」の 4 点。このうち、自治体保健師になって良かったこととしては、「病院での一時点だけではなく、長い地域生活を支えることができる」「地域の人々のネットワークをつなげて仕組みを作り、健康な地域に変えることができる」ことなどが語られた。辛かったこととしては、対人業務で苦情があった場合が挙げられたが、「周囲の保健師が悩みに共感し、困難ケースについての話し合いが学びの場になっている」こと等が伝えられた。

② 座談会 1「うちの地域の魅力、保健活動の魅力をお伝えします！」

6 つのエリア別の部屋に分かれ、ファシリテーターの司会のもと参加者から寄せられた質問に各部屋の担当者が答えた。参加者からは、各担当者の所属自治体における保健活動の特徴や、現在の自治体を志望した理由、地元以外の自治体を志望する場合の就職準備などの質問が多く寄せられた。担当者からは「知らない土地であるからこそ生活者として新鮮な視点で物事を考えられる

ため、地元以外の自治体にもぜひ志望してほしい」「保健師として保健活動を続けるうちに地域に愛着を感じていく」といった内容が語られた。

③ 座談会 2「現役保健師と話そう！聞いてみよう！」

6 つのテーマ別の部屋に分かれ、座談会 1 と同様に実施。自治体規模による業務内容の違いや一日の仕事の流れ、看護師経験の要否などの質問が多く、「都道府県は地域のシステム作りを行い、市町村はそれぞれの課題に応じて実際の活動を展開する」「島しょ町村は社会資源が少ないため、保健師のコーディネート機能が重要でやりがいがある」「保健師は様々な経験を活かすことができる仕事である」といった内容が語られた。

3. 2023 年度 自治体保健師の活動内容や魅力発信のためのイベント「地域で働く保健師の魅力～自治体保健師に聞いてみよう」

これまでのイベント実施の結果、現役の自治体保健師から話を聞くことができることが高い評価を得ていた。2022 年度はエリア別の座談会を実施したが、「自分の興味のある自治体の話が聞けなかった」という声があり、地域別・自治体別の情報提供を求める声があった。また、申請時に質問を受け付けたもののオンラインによる一方向の情報発信であったため、話を聞く中で生まれる疑問を直接質問できる機会が求められていた。そこで、本年は全国の会場において対面で開催することとした。

1） 企画

(1) 対象者：看護学生、保健師資格保有者、学生の保護者 等

前年度までと同様の対象者に加え、子どもの進路に関する保護者の関心も高いことが見込まれ、学生の保護者も参加可能とした。また、幅広い層への自治体保健師の魅力情報発信という目的から、参加者が少ない都道府県については、高校生の参加も可能とした。

(2) 日時：2023 年 12 月 2 日（土）13 時 00 分～16 時 00 分

※都道府県によって開催日時が異なる。詳細は一覧を参照

前年度までの結果から春季の開催が望ましかったが、運営に関する県協会への依頼や参加自治体の募集に要する時間を考慮し、看護学校 3 年生までの参加を見越し、開催時期を設定した。

〔一覧〕

開催日	都道府県
12 月 2 日（土）	北海道, 青森県, 岩手県, 秋田県, 山形県, 栃木県, 群馬県, 千葉県, 東京都, 長野県, 富山県, 石川県, 静岡県, 愛知県, 三重県, 滋賀県, 京都府, 和歌山県, 鳥取県, 島根県, 岡山県, 広島県, 山口県, 香川県, 愛媛県, 高知県, 福岡県, 佐賀県, 鹿児島県, 沖縄県
12 月 10 日（日）	奈良県
12 月 16 日（土）	宮崎県
12 月 17 日（日）	徳島県
1 月 13 日(土)	福井県, 岐阜県, 大分県
1 月 20 日(土)	福島県, 山梨県
1 月 27 日(土)	神奈川県, 大阪府, 兵庫県, 長崎県, 熊本県
1 月 28 日(日)	埼玉県
3 月 2 日(日)	茨城県

(3) 開催方法：参集

(4) 会 場 ：各都道府県会場

(5) 申込者数：1,677 名

(6) プログラム

・全国の都道府県会場での同時開催を予定していたため、自治体保健師について多くの人が疑問に思う事項を説明する第一部（パブリックビューイング）と各会場の相談会で個別に疑問を解消す

ることができる第二部の二部構成とした。

・第一部は本会で実施しているイベントの様子を配信した。これまでの参加者アンケート結果から「都道府県と市町村など所属自治体の規模による仕事の違い」について関心が高かったため、それぞれ異なる場所で活動する現役自治体保健師が登壇。小規模自治体における人材確保が課題であることをふまえ、都道府県、市町村に加えてへき地の自治体保健師も講演した。

・登壇者への質問を申込時に受け付け、講演、座談会の参考とした。

・第二部、各県の「各自治体のお仕事相談ブース」では、自治体毎に相談ブースを設置し、地域での保健活動の魅力や特徴を説明した。「なんでも相談ブース」では、保健師の活動内容や疑問に思っていること、就職試験対策など相談内容を問わず対応した。

第一部「自治体保健師の活動内容や魅力発信のための Web イベント」(13:00～14:30)

時間	プログラム	登壇者（敬称略、2023 年当時）
13:00-13:03	開会挨拶	公益社団法人 日本看護協会 会長 高橋弘枝
13:03-13:09	来賓挨拶	厚生労働省 健康・生活衛生局 健康課 保健指導室 室長 五十嵐 久美子 全国保健師長会 会長 松本 珠実
13:09-13:54	【講演】 「都道府県・市町村・へき地 様々な場所で活躍する自治体保健師 それぞれの魅力」	
(15 分)	講演① 都道府県の自治体保健師	神奈川県平塚保健福祉事務所 保健予防課長 山田 佳江
(15 分)	講演② 市町村の自治体保健師	福知山市福祉保健部地域包括ケア推進課 課長 高山 明子
(15 分)	講演③ へき地で勤務する自治体保健師	十島村役場 健康福祉室 肥後 あかね
13:54-14:00	休憩	
14:00-14:28	座談会	座長： 名古屋市守山区保健福祉センター保健予防課 課長 荒川 緑 講演者：講演①～③の 3 名
14:28-14:30	第一部 終了挨拶	日本看護協会 常任理事 中野 夕香里

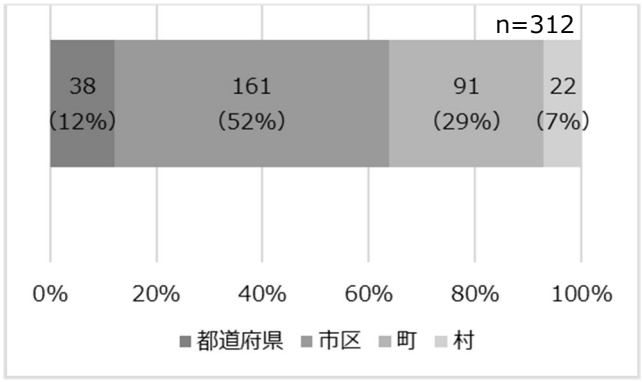
第二部「自治体保健師との相談会」(14:30～16:00)

時間	ブース名	対応者
14:30-16:00	各自治体のお仕事 相談ブース	自治体保健師または保健師採用担当者 1～2 名
	なんでも相談ブース	自治体保健師 3 名程度

(7) 「各自治体のお仕事相談ブース」

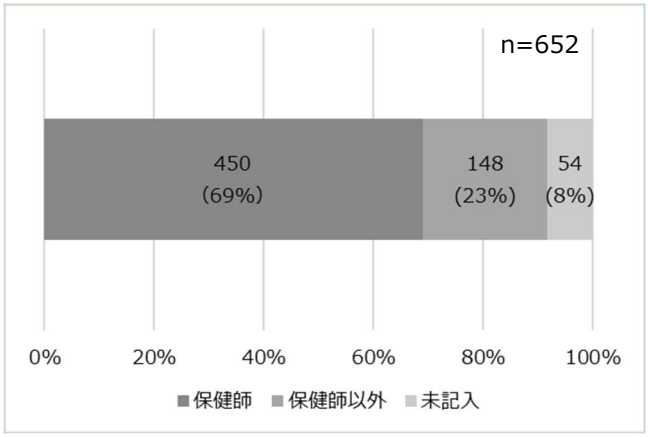
・参加自治体数 312 名

〔都道府県、市区、町、村の内訳〕



・ブース対応者数 652 名

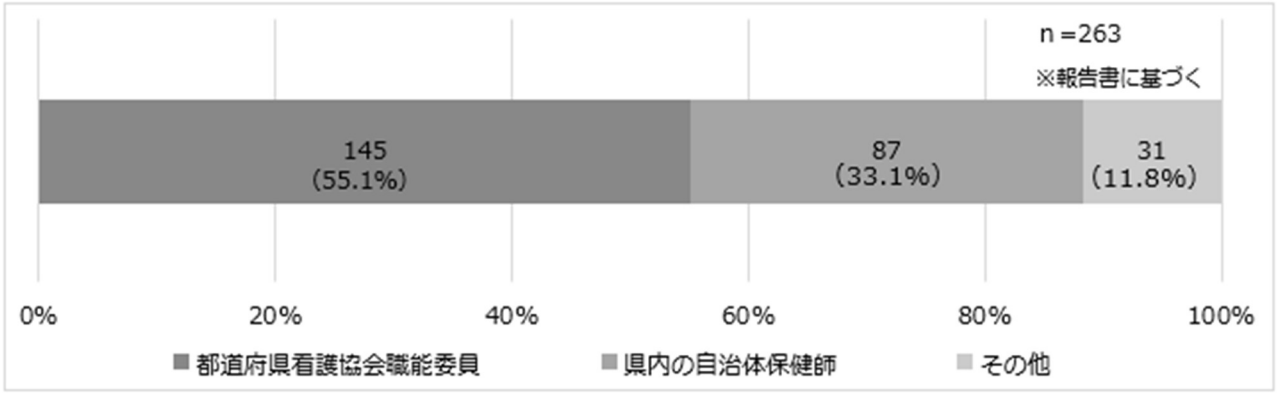
〔対応者の職種〕



(8) 「なんでも相談ブース」

・ブース対応者数 263 名

〔対応者の属性〕



2 ） 参加者からの事前質問（申込時）

申込時に質問を受け付けたところ、参加者の質問内容の傾向は以下のとおり整理された。

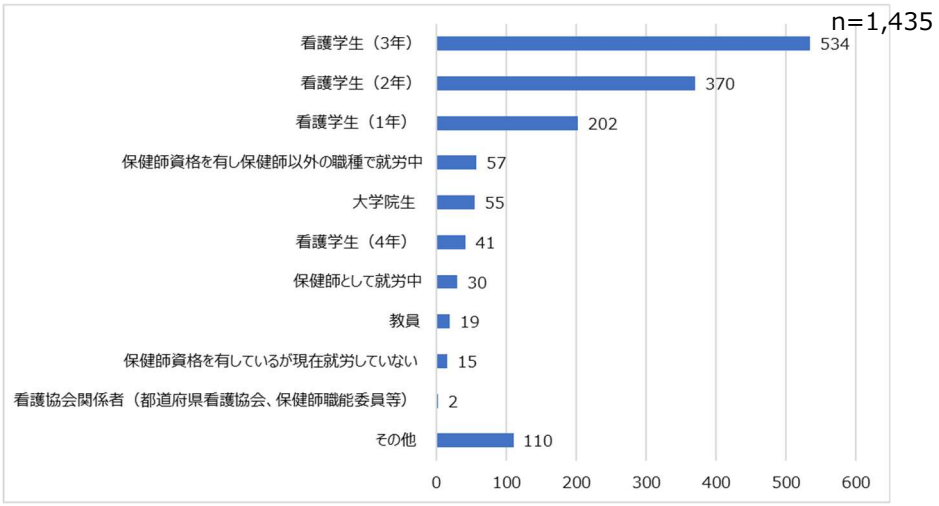
（n=1,677）

分類	主な質問
活動内容	一日のタイムスケジュール/具体的な活動内容/自治体保健師の使命/配属部署　等
やりがい	保健師として働く上でのやりがい・苦労/地域の人と関わる上で大切なこと/働く前に抱いていたイメージとのギャップ
試験対策	採用試験・公務員試験の内容、対策方法
きっかけ	自治体保健師になったきっかけ、理由
能力	自治体保健師に求められる能力、経験
ワークライフバランス	ワークライフバランス、福利厚生、異動について
看護師経験	病院での看護師経験の要否
自治体	自治体及び自治体における保健活動の特色
教育	入職後の教育体制

3 ） 開催結果

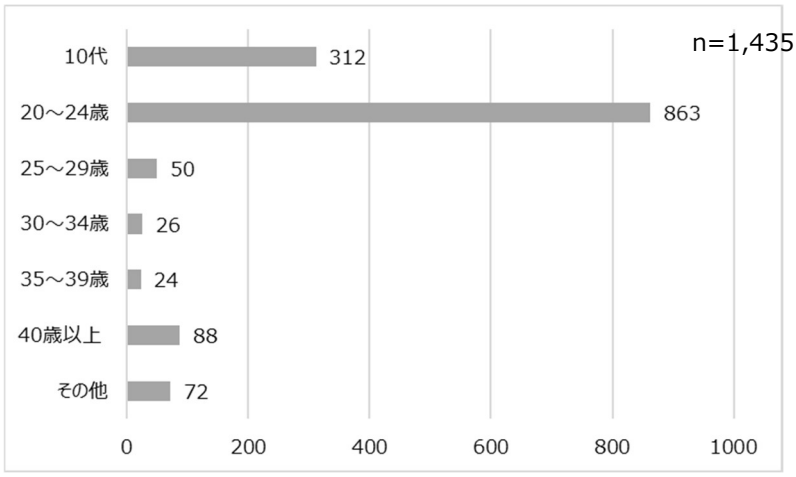
(1) 参加者数：計 1,435 名

〔属性〕



「その他」のうち、「保護者」は 43 名（3.0%）、「高校生」は 21 名（1.5%）

〔年代〕



〔住所地の都道府県〕

北海道	27	神奈川県	42	大阪府	48	高知県	14
青森県	21	山梨県	42	兵庫県	64	福岡県	23
岩手県	29	長野県	60	奈良県	15	佐賀県	23
秋田県	21	富山県	44	和歌山県	20	長崎県	20
山形県	14	石川県	32	鳥取県	40	熊本県	24
福島県	14	福井県	23	島根県	30	大分県	30
茨城県	28	岐阜県	37	岡山県	52	宮崎県	21
栃木県	27	静岡県	22	広島県	36	鹿児島県	11
群馬県	41	愛知県	68	山口県	16	沖縄県	39
埼玉県	45	三重県	28	徳島県	25		
千葉県	43	滋賀県	8	香川県	21		
東京都	66	京都府	45	愛媛県	36	**合計**	**1,435**

(2) プログラムの主な内容

①【講演】「都道府県・市町村・へき地 様々な場所で活躍する自治体保健師 それぞれの魅力」

所属が異なる自治体保健師より、保健師を目指したきっかけ、所属毎の仕事内容・魅力などを具体的なエピソードを交えながら説明。

・「都道府県の自治体保健師」

産科医療機関への出張相談や所内での連携事例など、コロナ感染症下の陽性妊婦への対応を具体的に説明しながら、地域課題を抽出して活動する都道府県保健師の魅力を伝えた。

・「市町村の自治体保健師」

市町村における健康増進事業やケースワークの実例を説明しながら、地域と深いつながりを持ち、乳幼児から高齢者まで幅広い年代の住民と関わることができる市町村保健師の魅力を伝えた。

・「へき地で勤務する自治体保健師」

医療資源が少ない島特有の環境における救急時のヘリ搬送、定期船での検診、巡回診療などの具体的な活動を説明。島民や関係者と連携しながら事業を展開できること、住み慣れた島の生活を支援できる活動の魅力を説明。

②座談会

座長の進行のもと、講演①～③の登壇者が「新任期と現在のやりがいの違い」、「活動する中で難しいと感じた経験」と「困難をどのように乗り越えてきたか」について意見交換を行った。「新任期と現在のやりがいの違い」については、「新任期は経験の不足から個別支援に集中していたが、経験を重ねるにつれて家庭の経済問題や介護などケースを総合的にみられるようになった」などが挙げられ、「活動する中で難しいと感じた経験」については、「マニュアル等決まったものがないため自身に任される部分が大きいこと」などが挙げられた。困難の乗り越え方については、同僚に相談したり住民に励ましてもらったりしたこと、困難なことがあってもその経験を通じて自身が成長する機会となることが伝えられた。

III. イベント開催のためのポイント整理

この章では、本会がこれまでに実施してきた「自治体保健師の人材確保事業」のうち、2023 年度事業を中心に、各種アンケート結果や県協会報告書から得られた情報に基づき、自治体保健師の情報発信イベントについて、以下のポイントをまとめる。

1. 開催時期
2. 対象者
3. 開催方法
4. 参加者の質問傾向
5. プログラム
6. 実施体制
7. 参加者募集の工夫
8. 参加自治体募集の工夫
9. 運営の工夫
10. 予算の確保

このポイントは今後同様のイベントを実施する際に参考となる情報という視点で整理している。

1. 開催時期

2021 年度及び 2022 年度は春季、2023 年度は冬季の開催となった。いずれの開催時期についても「ちょうどいい」と答えた人の割合は半数を超えている。（2021 年度：4 月/187 人・67%、2022 年度：5 月/724 人・87.5%、2023 年度：12 月～3 月/598 人・82.9%）

ただし、2023 年度の各種アンケート結果や県協会報告書等から、今後イベントの時期設定を行う際には、参加者及び自治体の状況を踏まえた上で決定すべきとの意見があった。

まず、参加者については、教育機関と事前に相談し、主な参加者である学生が参加しやすい時期、具体的には、試験時期や県外に進学した学生が帰省しやすい時期などを踏まえた上で決定することが望まれる。

次に自治体については、直近の採用につながる時期での開催を希望する自治体の傾向があることから、事前に情報を収集し、自治体の採用時期も考慮した上で開催時期を考えることがより効果的であると考える。

開催時期を検討する時のポイント

参加者と参加自治体の状況を踏まえた上で決定する。

■参加者

→主な参加者である教育機関に相談する。

例）試験と重ならない時期/県外の学生が帰省しやすい時期　等

■自治体

→都道府県や各市町村に情報収集し、採用時期を考慮する。

2. 対象者

2021 年度及び 2022 年度は「学生」「保健師資格保持者」のみを対象としたが、2023 年度は「保護者」も対象とした。また、参加者が少ない都道府県については高校生の参加も可能とした。これまでのイベントでみられた参加者の数と主な感想を以下に整理する。

1 ） 学生（看護師・保健師養成教育機関/高校生）

2021 年度から 2023 年度のイベントでは、学生（在学中）の申込・参加が大半をしめた。特に冬季開催となった 2023 年度は、看護学生 3 年生、2 年生、1 年生の順に参加が多くなった。

高校生については、約 20 名（全体の約 1.5%）の参加があった。参加した高校生からは、「これまでは頭の中ではっきりと思い浮かべることが出来なかった保健師像を実際の方の話を聞くことで理解を深められた」といった感想があり、本イベントが自治体保健師そのものについて理解する機会となったことが伺える。

■進学を考える時期に情報発信すること
2021 年度及び 2022 年の参加者アンケートにおいて、「今後どのような機会があれば自治体保健師への就職を考えるきっかけになるか」を聞いたところ、「保健師について幅広い対象に周知する」ことが挙げられた。具体的には「大学内保健師コースを受験する前の学生」「高校生」に周知することが挙げられた。

2 ） 保健師資格保有者

保健師資格保有者についても、2021 年度から参加対象としている。

学生に比べると申込・参加の割合は低くなるが、2023 年度の参加者アンケートでは「求人案内だけでは分からない詳しい内容が伺えてとても参考になった」といった感想が寄せられ、本イベントが既卒者にとっても情報収集の機会になったことが伺える。

3 ） 保護者

2023 年度の場合、約 40 名（全体の約 3%）の参加があった。

参加した保護者の感想をみると、新卒者の就職後のメンタル不調が社会問題になっていることに触れ、子どもの仕事に対する理解を深めることができ、子どもをサポートする力も向上させていけると感じたという声が寄せられた。

対象者を検討する時のポイント

■参加者数は、看護学生＞＞保健師資格保有者＞保護者・高校生
■進学を考える時期での情報発信も求められている
例）大学内保健師コースを受験する前の学生、高校生など、
■子どもの関心のある仕事について理解を深めたいと思う保護者もいる
→子どもの進路選択をよりサポートできる

3. 開催方法

2021 年度～2022 年度はオンラインで実施した。終了後、参加者アンケートにおいて参加しやすい開催方法を聞いたところ、「オンライン開催」が多くを占めた。

（2021 年度：268 人・95%、2022 年度：612 人・74%）

一方、2023 年度は原則対面開催（一部ハイブリッド開催）とした。参加者アンケートの結果、今後のイベント開催方法で「対面開催」（51.7%）「ハイブリッド開催」（38.6%）が多数を占めた。対面開催の良さが評価された形となった。

1） 対面開催の特徴

「対面開催」については、保健師の雰囲気や職員同士の関係など、実際に会うことでしかわからないような内容が伝わる点が評価されたことが伺える。参加者は、親身になって対応するスタッフの姿をみて、好感を抱いていた。また、他にも、参加者同士の交流ができたり、あまり知らなかった自治体にスタッフの誘導でつながると、同じ場にいるからこその新たな出会いが生まれたケースもある。このような特徴から、「対面開催」は特に相談会との相性が良いと考えられる。

2） オンライン開催の特徴

オンライン開催については、移動せずとも参加が可能なこと、居住地域を問わず全国に繋がれることが挙げられる。オンラインでの相談ブースを設置すれば、当日会場への出席が難しい自治体あるいは参加者への対応も可能になる。

また、2023 年度参加者アンケート結果の第一部の「不満だったところ」に「開催方法が希望と異なった」ことが挙げられていた。その場での質疑を受け付けない一方向の情報発信の場合は、必ずしも同時視聴が求められている訳でないことがわかる。

その一方で、第一部の内容を聞いて理解した後に相談ブースにつながったことを評価する感想もあった。保健師に関する紹介動画や資料を案内し、事前に視聴・閲覧した上で参加してもらうよう案内することも一案だと考えられる。

また、イベントの様子を録画しアーカイブを公開すれば、当日参加できなかった人も視聴することができ、何度も繰り返し視聴することで理解を深めることも可能となる。

このように、「対面開催」と「オンライン開催」にはそれぞれの長所や特徴がある。イベントの内容や都道府県の地理的特徴等を踏まえ、柔軟な開催方法を検討すると良い。

開催方法を検討する時のポイント

対面開催とオンライン開催の特徴を踏まえ、柔軟な開催方法を検討する。

■対面開催

自治体の雰囲気が伝わる/参加者同士で交流ができる/知らなかった自治体との出会いが生まれる

■オンライン開催

・移動が不要で参加しやすい/居住地を問わず全国につながれる/（録画公開で）欠席者も視聴可能

【事例紹介】長野県看護協会

長野県看護協会では、保健師養成課程を持つ大学の協力を得て、協会の他に大学にも会場を設置し実施した。その結果、県協会 27 名、長野保健医療大学 13 名、佐久大学 20 名、合計 60 名が参加し、好評を得た。

■3 会場で実施した理由

長野県の地理的な問題と 12 月の寒い時期の参集方式は参加が少ない可能性があったため。参加者が参加しやすいよう、県協会会場のほかに県内の大学での開催を検討した。

■佐久大学と長野保健医療大学を選んだ理由

当初は県内の 4 圏域での開催を検討したが、同様の説明会や他のイベントがあり、県内の北と東にある大学を選出した。結果として、県協会会場では県内の中央と南を網羅した。

大学の教員が窓口となり学生への周知を行った。また、施設利用料の減免等の協力を得た。

〔各会場の位置関係〕

「長野県ホームページ 信州くらしのマップ」より本会作成
https://wwwgis.pref.nagano.lg.jp/pref-nagano/PositionSelect?mid=1200

■「自治体保健師との相談会」について

職能委員から選出したリーダーを各大学に配置し、職能委員とともに事前準備から当日設営まで行い「各自治体のお仕事相談ブース」と「なんでも相談ブース」を設けた。

各会場をリモートでつなぐことはせず、各自治体は最寄りの会場に参加した。「なんでも相談ブース」については、どの会場に参加しても様々な現場の保健師の生の声が聴けるよう県と相談し、県（保健所）、自治体、職能委員（産業保健の現場も含む）が対応した。

長野県看護協会の取り組みのポイント

■県内の地理的条件等を踏まえ、県内のどこにいても参加しやすいよう会場を設定

■「なんでも相談ブース」は、参加会場による対応の違いを抑えるため、県、自治体、産業保健分野を含む職能委員を各会場に配置

■大学会場にも職能委員から選出したリーダーを配置

→他の職能委員とともに事前準備から当日運営まで行った。

4. 参加者の知りたいこと

三年間を通じて、イベントへの申込時に登壇者に質問したいことを受け付けた。多くの参加者が寄せた現役の自治体保健師への質問内容を整理すると、主に「仕事内容・活動内容」「自治体保健師を目指したきかっけ」「良かったこと」「困難なこと」「所属自治体・地域について」「教育体制・スキルについて」「試験・面接対策」「臨床経験の要否」「働きやすさ」などに分けられた。なお、コロナ禍においては、新型コロナ感染症流行による仕事内容や教育体制の変化なども挙げられた。

イベント後のアンケートからも「試験・面接対策」について知りたいと考えている者が多いことがわかっており、その際には自身と年齢の近い保健師に相談をしたいとの声があった。また、自治体保健師に限定せず、様々な保健師としての活動について話を聞きたいとの意見もあった。

このほかに「先輩保健師と出身学校でお話しできる機会があったらよい」との声や保健師志望者同士で就職活動についての情報交換や交流を望む声もあり、より身近な場所や共通の立場にある者同士での交流が求められている。

〔表〕自治体保健師に質問したいこと(2021～23 年度の申込時受付質問から整理)

分類	主な質問
仕事内容・活動内容	・保健師の業務内容/実際にどのような保健活動を行っているのか ・１日の仕事の流れ ・新任期の仕事内容 ・都道府県と市・区の保健師の業務内容の違い/都会と地方の違い ・他職種との関わり ・具体的な業務 （例 地域の制度やシステム面にどの程度関与できるのか）
自治体保健師を目指したきっかけ	・自治体保健師を目指したきっかけ（転職した理由）/理由
自治体保健師になって良かったこと	・保健師になってよかったこと、やりがい ・保健師として働く上で大事にしていること ・今までで最も印象的な仕事
困難なこと	・困難/就職して不安・大変だったこと/リアリティショック
所属自治体・地域について	・今働いている自治体に決めた理由 ・所属自治体における保健活動の特色/その行政特有の仕事 ・所属自治体の保健師としてのやりがいや業務中に楽しいと感じること ・その地域ではたらいてよかったこと ・働く地域によってどのような特徴があるのか
教育体制・スキルについて	・自治体保健師になるまでの道のり ・キャリアプラン ・自治体保健師に求められる能力、経験/自己研鑽/スキルアップの方法 ・1 年目の教育体制について/入職後の教育体制 ・具体的に気を付けていること （例：コミュニケーションの際に気をつけていること）

分類	主な質問
試験・面接対策	・就職活動の進め方 ・就職試験・国家試験対策 ・実習、国家試験、就職試験の両立方法 ・ゆかりが無い自治体を受験する際の試験対策 ・市と町村での試験や面接の違い ・どのような勉強をいつから始めたか ・働きながら勉強することはどれくらい大変だったか ・採用試験・公務員試験の内容、対策方法
臨床経験の要否	・看護師との業務・勤務形態の違い ・看護師経験の要否 ・看護師の臨床経験があることのメリット・デメリット ・実務経験、臨床経験が活かされたこと
働きやすさ	・ワークライフバランス ・福利厚生 ・異動
その他	・コロナ禍で大変だったこと など

5. プログラム

主に 2023 年度のプログラムに対する参加者、関係者からの意見を参考に、自治体保健師による情報発信と相談会についての意見を整理する。

1 ） 自治体保健師による情報発信（講演、座談会）

第一部では、都道府県、市町村、へき地の保健師による講演、座談会を行った。講演で話す内容や座談会での扱ったテーマは、申込時に受け付けた参加者からの質問をもとに設定した。

その結果、参加者からは、大きく三つの点で評価された。一つは、都道府県、市町村、へき地の登壇者の説明により、活動場所による違いを理解できたことである。活動場所の保健師が同日に説明したことで、違いを比較できたという意見がみられた。また、疑問に思っていた内容について現役保健師から具体的な話を聞けたことが評価された。実際に経験した困難やエピソードを聞くことで、保健師の具体的なイメージがわき、自身の将来を想像しやすいとの意見がみられた。また、居住地以外の話が聞けたことを評価する声もあった。

一方で、「やや不満」「不満」と答えた人は約 3%ほどだが、不満な点として、想定と異なる内容であったことが挙げられた。本会が周知の際に準備したプログラム内容がわかりにくかったことが考えられ、イベント内容が具体的に伝わるような工夫が必要だった。

2 ） 自治体保健師との相談会

(1)「各自治体のお仕事相談ブース」

地域の自治体が相談ブースを出展し、参加者からの相談に応じた。

参加者アンケートの結果、自治体保健師に話を聞くことができる本相談会が貴重な機会となったという意見が多くあった。本ブースを評価した理由は、大きく 2 つに分けられる。一つは、自治体保健師に知りたいことやわからないことを具体的に答えてもらえたことである。その自治体で実際に働く保健師から話を聞くことで、授業では知ることのできなかった、具体的な業務内容や一日の様子、職場の雰囲気や教育体制などの詳細を質問することができていた。その結果、参加者の持つ不安が解消され、より具体的なイメージが湧き、将来の進路を考える参考となっていた。

このように参加者が相談できた背景には、相談ブースの相談しやすい雰囲気が影響していると考えられる。聞いて良いのかわからないようなことも聞ける雰囲気があり、自治体が親身になって対応する姿をみて参加者からは「学生のことを考えていることが伝わってきた」との感想もみられた。

二つ目は、地域の様々な自治体について知る機会となったことである。複数の自治体が参加していたことで、各自治体の特色を知る機会となり、それぞれの違いを比較することができていた。複数の自治体の話を聞ける雰囲気や声掛けが会場にあり、参加者が様々な自治体ブースを訪れていた様子が伺える。また、自身が就職を希望する自治体が参加していた場合は、実際の職場の雰囲気ややりがいを直接質問できてよかったとの考え方もあった。各自治体から話を聞くことで、自治体の魅力のみならず地域の理解につながっていた。

一方で、「やや不満」と答えた人は 2.5%と少なかったものの、主に時間が足りなかったことなどがあげられた。

なお、本ブースに参加していない人は全体の 12.5%を占めた（90 人）。その理由として、「保健師の仕事についておおまかにわかればよかった」「何をしたらいいのかわからずにいた/質問事項がな

かった」ことが整理された。

これらのことから、本相談ブースを設定する際は、相談時間を十分に確保すること、質問事項がない人に対応することを注意する必要がある。

(2)「なんでも相談ブース」

「各自治体のお仕事相談ブース」とは別に、自治体保健師全般に関することをなんでも相談できるブースを出展し、参加者からの相談に応じた。参加者アンケートの結果、本ブースが評価された点は大きく二つに分けられた。

一つは、自治体特有のものではなく保健師全般についての疑問を質問できたことだった。保健師になるのはどうしたら良いか、そもそもどのような職業なのか、臨床経験があった方がよいか、保健師を目指すための学習方法などの質問に答えていた。また、看護師や助産師と保健師どれを目指したらよいかということや、将来像に関する相談など、自身の状況に紐づいた悩みを相談していた。

また、感想の中でも特徴的だったのは、「各自治体のお仕事相談ブース」との橋渡しの機能を果たしていたことである。例えば、自治体のブースで質問しきれなかったことに答えてもらったことや、質問にいくブースのアドバイスや、希望のブースの担当者につなげてくれたことなどを挙げていた。

プログラムを検討する際のポイント

【自治体保健師による情報発信】

■様々な活動で活躍する自治体保健師の特徴や違いがわかる

■参加者が知りたい内容に現役の自治体保健師が、経験を交えながら具体的に答える

→具体的に将来をイメージしやすい

【各自治体のお仕事相談ブース】

■どのような質問でも自治体に関する参加者の疑問に具体的に対応する

■相談時間を十分に確保する。

（地域の様々な自治体が参加することで、それぞれの特徴がわかり、地域の理解につながる）

【なんでも相談ブース】

■特定の自治体に限らない、保健師全般に関する質問や悩みを受け付ける

■参加者の希望に応じて、「各自治体のお仕事相談ブース」との橋渡しを行う

3 ） 「自治体保健師との相談会」の工夫

会場によって参加者や参加自治体の状況が異なるため、第二部「自治体保健師との相談会」では様々な工夫が報告された。プログラムや参加者誘導など、相談会運営での工夫について整理して紹介する。

(1) 相談会開始時の参加者全員への情報発信

第一部終了後、参加者が各ブースに分散する前に、「自治体保健師の活動紹介・PR」「なんでも相談ブース自己紹介」「共通質問への回答」について情報を発信していた。

① 自治体保健師の活動紹介・PR

多くの県協会で「各自治体のお仕事相談ブース」に参加する自治体保健師による情報発信の時間を設けていた。その理由として「当日、参加者が訪れないブースが発生する可能性があった」ことが挙げられ、全ての参加自治体に情報提供の機会を保障していた。

形式は、各自治体保健師が順番に話すリレートークや、スピーチ、プレゼンテーション、座談会などがあった。各自治体からの PR 時間は、1 自治体あたり 2 分から 10 分程度であった。

情報発信の内容は、「自己紹介」「各自治体の PR」「各自治体の保健師活動の特徴」「求める保健師人材」など。他のイベントと合同で開催した県協会においては、「開催地域の特性を踏まえた保健師活動の実際」について自治体保健師からのメッセージを発信していた。県協会によっては、スクリーン上に地図を映し、参加自治体の位置を示すなどの工夫もみられた。

参加者が全ての自治体の情報を知ることにより、訪問する自治体ブースの絞り込みができたり、当初興味が無かった自治体に関心を抱いていた。また、ブース担当者の顔がわかることで、相談しやすい雰囲気につながったとの振り返りが得られている。

また、リレートークに対応した自治体保健師からは、「負担感があったものの、改めて自分たちの活動を考えることができた」といった感想があり、新たな気づきにつながっていた。

表：自治体保健師の活動紹介・PR

形式	リレートーク、スピーチ、プレゼンテーション、座談会、講演
時間	1 自治体あたり 2 分から 10 分程度
発信内容	・自己紹介 ・各自治体の PR ・各自治体の保健師活動の特徴 ・求める保健師人材 ・地域の特性を踏まえた保健師活動の実際 など
効果	・参加者が全ての自治体の情報を得る機会となった →訪問するブースの絞り込み/当初興味が無かった自治体に興味を持つ機会に ・相談しやすい雰囲気につながった ・自治体保健師の気づきにつながった

② なんでも相談ブース自己紹介

参加者と相談ブース対応者の顔が見える関係とし相談しやすい雰囲気とするため、県協会によっては、「各自治体のお仕事相談ブース」対応者のほか、「なんでも相談ブース」の担当者についても自己紹介を行っていた。

③ 共通質問への回答

第二部の個別相談会を効率的に進めるため、ある県協会では、自治体を越えて共通している質問については、第二部開始前に職能委員が経験を交えながら回答していた。

(2) 相談ブースの追加

本イベントでは、「各自治体のお仕事相談ブース」と「なんでも相談ブース」の二種類の設置を依頼していた。しかし県協会によっては、参加者の傾向にあわせ、上記二つに加えて新たな種類の相談ブースを設置していた。

① ナースセンターブース

複数の県協会において、ナースセンターに関するブースを設置していた。ブースでは、参加者からの相談対応、関心のある自治体の求人情報の提供、求人票の見方を教えるなどの対応をしていた。その結果、「学生や求職中の方数名がナースセンター登録され、自治体へもナースセンターを PR する機会となった」と振り返る県協会もあった。

② 進学相談ブース

今回のイベントでは、看護学生（1,2 年生）の参加も多く、高校生も参加していた。そのような保健師への進路を検討している学生を対象に、進学について説明するブースを設置した県協会もあった。

(3) 参加者の誘導

参加者が関心のある自治体ブースを自由に訪問できることとした場合、自治体によって混雑の状況が異なる懸念があった。そのような状況を防ぐため、「多くの自治体ブースへの訪問を促す工夫」や「相談時間を増やす工夫（待ち時間を減らす工夫)」が必要となっていた。

また、保健師についての基本的な情報がなく、何を質問すれば良いかわからない状況にある参加者も少なくなかった。相談会当日は、そのような「質問がない・迷っている人への対応」が必要となっていた。

① 多くの自治体ブースへの訪問を促す工夫

■ローテーション/一巡ルールの設定

「各自治体のお仕事相談ブース」については、小規模自治体への訪問者がないことや人気の市町に参加者が偏る懸念があった。このような状況を防ぐため、ローテーションや一巡ルールを設定し、参加学生がより多く、あるいは全ての自治体を訪れるよう工夫していた。

【具体的事例】

- 参加学生等がすべての自治体ブースを巡廻して保健活動の特徴を聞ける設定とし、一巡後はフリータイムとし、各ブースで自由に相談できる時間を設けた。
- 参加者がより多くの自治体ブースを訪問できるよう、6 自治体なので 6 グループに分け、ローテーション形式で回ってもらい効果的だった。（小規模自治体では訪問者が無いことを危惧していたがしっかり説明できた）
- 人気の市町に偏らないように、各市町ブースの椅子の数を限って、椅子取りゲーム式に必ずどこかに座って話を聞くようにし、数回、ローテーションをした。半数に分けてブースに行かない待機者には保健師職能委員が座席に出向いて、何でも相談を行った。

その結果、小規模自治体についても参加者に対する説明をしっかり行うことができたといった効果が得られている。

■スタンプラリー

「スタンプラリー」という形で多くの自治体ブースへの訪問を促していた県協会が複数みられた。実施していた県協会では、スタンプラリー用紙を配布し、参加賞及び景品を準備していた。（参考資料 p84）スタンプラリーを実施した結果、参加者が多くあるいは全ての自治体を訪問するきっかけとなっていた。ある県協会によれば、自治体ブースが 10 つ程あったが、スタンプラリー参加者のブース訪問数は平均 5 ヶ所・最大 9 ヶ所となったという。また、自治体からも「スタンプラリーがあったので、多くの人がブースを訪ねるきっかけとなり、アピールする良い機会となった」といった意見があり、一定の効果があったと振り返っている。

表：「各自治体のお仕事相談ブース」多くの自治体ブースへの訪問を促す工夫

懸念点	手段	効果
・小規模自治体への訪問者がないこと ・人気の市町に参加者が偏ること	・ローテーション/一巡ルールの設定 ・スタンプラリー	・小規模自治体についても参加者に情報発信できた ・参加者が多数/全ての自治体を訪問した

② 相談時間を増やす工夫（待ち時間を減らす工夫）

希望者が多い自治体ブースについては、待ち時間を減らす工夫が求められた。県協会報告書からは、相談時間の制限を設けていなかった会場では、自治体で説明時間が異なり人の流れがスムーズでなかったという課題がみられた。参加者アンケートでも、「混んでおり参加が厳しかった/時間がなかったため」自治体のお仕事相談ブースに参加しなかったという回答があり、待ち時間や混雑といった状況への対応が必要となった。

対応として、参加者が集中すると予想された自治体については、個別相談ではなく、「集合形式で自治体の説明」を実施していた。

また、事前に各自治体の保健師で相談の内容に応じた担当を決めてもらい、相談者の人数配分も行っていた。その結果、「相談者を待たせることなく相談に繋げることが出来た。相談者からも満足している旨の言葉もあった」というケースもみられた。

このほか、時間を区切り入れ替え制にするなどの工夫が求められた。

③ 質問がない・迷っている人への対応

参加者の中には、自治体への個別相談がない、もしくはどの自治体に行けば良いかわからない人がみられた。第二部開始後、そのような質問がない・迷っている人をフォローする工夫が必要となった。

ある県協会では、相談がない参加者を対象に、グループで保健師の仕事を聞くコーナーを作り、グループワークを行っていた。

また、異なるケースでは、相談するかどうか躊躇する参加者がいた際、「スタッフが誘導することで相談に入れていた。誘導役のスタッフの存在が必要」との報告があった。

また、

大学 1 年生などが自治体保健師の活動を理解していなかったことへの対応として、事前に自治体毎の PR 動画などを作成し、空き時間に視聴してもらうなどの工夫をした方が良いことなどが挙げられた。

(4) その他運営上の工夫

① ワールドカフェ形式

その他、第二部の相談会について、「相談ブースをつくらず、ワールドカフェ形式で自治体保健師が移動する形で実施した」というケースもあった。

② グループでの移動

個別相談の状況を踏まえた上で、2～3 人程度のグループを作りブースを回ってもらったという事例もみられた。その結果、「友人の質問を聞く中で、相談者に尋ねたいことが明らかになった参加者もいた」との報告があり、参加者同士刺激しあえる手段であったことが読み取れる。

「自治体保健師との相談会」を実施する際の工夫

- 全ての参加自治体が情報を発信できるような工夫
  （自治体により PR タイム）
- 参加者が多くの自治体を訪れられるような工夫
  →・ローテーション/一巡ルール　・スタンプラリー　など
- 相談希望者が多い場合は、待ち時間を減らすための工夫を
  →・集合形式　・入れ替え制　・相談者の役割分担/人数配分
- 質問がない/迷っている人への対応を

6. 実施体制

1 ） 地域の関係者との連携会議

県によっては本イベントの開催に向けて地域の関係者と会議を実施し、企画、周知、当日運営、振り返りを行っていたケースもみられた。

都道府県の保健師人材確保部署や統括保健師、ナースセンター、保健師職能委員会等と打合せを実施し、イベントの内容や周知計画、それぞれの役割分担を決めていた。事前打合せ後も、メールや電話で関係者間の情報共有を行い、イベント終了後は参加自治体も含めて振り返りを実施していた。特に、振り返りは自治体への情報発信の機会となり、「小規模自治体がナースセンターに求人登録をするなど、ナースセンターを理解してもらう機会になった」との回答もあった。

表：地域の関係者との連携会議（例）

時期	検討内容
イベントの企画時	・参加しやすい開催日 ・参加者・自治体への周知計画 ・自治体保健師の人材確保に関する情報共有 ・役割分担 ・当日の運営 等
随時	・参加者、参加自治体の情報共有
イベント終了後	・（参加自治体含め）内容振り返り

また、都道府県と共催で実施した県協会においては、県の協力が得られたことにより、参加者や参加自治体への協力依頼をスムーズに行うことができたとの感想が寄せられた。

2 ） 他イベントとの合同開催

本イベントを看護職関連の他のイベントと合同もしくは同日に開催した県協会もみられた。その理由として、保健師志望でない看護職者にも自治体保健師に関心を持ってもらえること、自治体保健師以外の看護職についても情報発信が行えること等が挙げられた。また、他のイベントと合同で開催することで、費用を共有することができるメリットが挙げられた。

〔例〕看護職合同進学就職説明会、潜在保健師の就労支援のための研修会、看護職マッチングフェア、潜在保健師の就労支援のための研修会

他の事業との連携もしくは差別化を検討する際にも、県・市町村、教育機関、国保連合会等関係機関との協議が必要だ。

実施体制に関するポイント

■イベントの企画時、終了後に地域の関係者と打合せを行う。参加者や参加自治体情報は随時共有する。
→周知計画や当日運営など、それぞれの役割を分担することが重要
■他のイベントとの合同・同日開催は、広く参加者確保が可能。費用を共有することができる

7. 参加者募集の工夫

2023 年度については、本会からの周知のほか、県協会において周知を行った。参加者募集の際の工夫を整理して紹介する。

1） 看護師・保健師養成教育機関への周知

2022 年度及び 23 年度の参加者アンケート結果からも、このイベントを知ったきっかけは「学校からのチラシ」「学校（教員）からのチラシ・連絡」が大半を占めた。（2022 年度：766 人・92.6%、2023 年度：634 件・82.9%）周知にあたっては教育機関の協力を得ることが効果的であることがわかる。周知にあたっては、以下の二つの工夫があった。

(1) 宛先の明確化

周知を依頼する際の宛先を明確にすることで、確実な周知につながった。特に、看護師・保健師養成教育機関の宛先を明確にすることで、イベント案内が直接学生の手に渡りやすい。

都道府県	・保健医療課(統括保健師) ・医療推進課（看護教育の主管部署の保健師）
保健師・看護師養成教育機関	・地域看護学担当教授 ・就職支援担当者

(2) 相談・働きかけ

看護師・保健師養成教育機関へ周知のみならず、相談やとりまとめを依頼するなど積極的にアプローチをした都道府県において参加者が多くなった。

〔具体的な取り組み〕

相談	・実施時期について、大学等に学生が比較的参加しやすい時期について相談
とりまとめの依頼	・担当教授あてにイベント開催の周知と参加者のとりまとめを依頼
学生に直接説明	・窓口になる方へ対面での説明をしたのち学生にも可能な限り対面で説明

2） 保健師資格保有者への周知

多くの県協会において、ｅナースセンター登録者にメールやＳＮＳ、郵送で案内していた。（都道府県によっては、保健師資格保有者、潜在看護職に限定して送信）また、「とどけるん」登録者にメールで案内した県協会もあった。

3） 高校生への周知

県教育委員会の了解を得た上で、県内の高等学校の進路指導担当教諭宛に文書にて案内していた。

4） その他

(1) 会議体・協議体等での周知依頼

地域の関係機関との協議体や研修などの場での周知依頼をしていた県が複数あった。

〔具体的な周知依頼先〕

保健師関連	・保健師連絡協議会（自治体、国保連合会、教育機関等の保健師により構成） ・県保健師会	
教育関連	・教務主任協議会 ・県看護教員協議会 ・県看護教育施設代表者会議	・県協会長が出席する学校の会議 ・学校連絡協議会 ・保健師養成機関連絡協議会
その他	・ナースセンターが看護学校で行う職業紹介事業	・県が実施する保健師等の研修会や会議等

このほか、「病院等に文書による周知」を行ったことや「県協会以外の保健師ネットワークによる自治体保健師への呼びかけ」も挙げられた。

(2) 県協会独自の周知媒体作成

都道府県によっては、開催日や開催時間が異なるため、県協会独自のチラシやリーフレットを作成し配布していた。（参考資料 p81）

(3) 参加自治体情報の提示/授業の一環として実施

参加者アンケートの結果、「どの自治体が来るかわからなかった」という声が見られたことから、参加自治体情報は早期に提示することが求められた。また、今回のイベントでは実施例がなかったが、今後参加者を確保するにあたって、看護師養成機関と連携し授業の一環として実施することなどがアイデアとして挙げられた。

(4) 申込受付

申込者の学校名もしくは居住の市町村を収集すれば、より効果的な参加者募集が可能となるだけでなく、自治体への参加も呼びかけやすいという声があった。

参加者募集に関するポイント

- 学生への周知は、看護師・保健師養成教育機関の協力が重要。
  →教員に相談したり、とりまとめをお願いするなど積極的に関わってもらう
- 保健師資格保有者への周知はナースセンターと連携
- 関心のある人の手元に確実に届くよう、宛先は明確・具体的に

8. 参加自治体募集の工夫

2023 年度のイベントに参加した自治体に、参加して良かった点を聞いたところ、「自治体の活動内容や魅力を PR できた」（180 件）「求職者のニーズを知ることができた」（170 件）「県協会と関係を築くことができた」（145 件）「他自治体の保健師人材確保状況を知ることができた」（111 件）ことなどが選択され、「特によかった点はなかった」と答えた自治体はなかった。その他、「市単独ではできないことを、県下、また大学の理解も得ながら協力してできたことは良かった」といった感想もあり、継続希望の声も多かった。本来であれば自治体保健師の魅力は実習等を通して伝え感じ取ってもらうことが最適だが、実際の実習スケジュールには余裕がなく困難さがあること、少ない人材を市町村で取り合うような状況を懸念する声も聞かれた。

多くの自治体が参加した会場もあった一方で、参加自治体の確保に多くの県で困難さがあった。参加しなかった自治体は「人材が確保できている」「毎年度の募集がない（直近の採用予定がない）」といった傾向にあることが県協会報告書から読み取れている。応募者が得にくい自治体は貴重な広報の機会として来年以降の応募につながることを期待して参加した一方で、時期的に 1，2 年生が主であり、即の採用に結びつきにくいとの意見もあった。

本項では、参加自治体募集の際に県協会が行った取り組みを紹介する。また、各種アンケート結果や県協会報告書から、今後必要と思われる取り組みについても整理する。

1） 協力依頼先

効果的に周知が行われるよう、主に統括保健師、都道府県、職能委員会に周知を依頼していた。場合によっては、周知のみならず、イベントについて説明した上で相手のニーズを確認し、適宜打合せや経過報告を行っていた。

このほか、関係者や市町村に、確実に届く宛先を事前に確認することの必要性も挙げられた。

表：参加自治体募集の際の協力依頼先

統括保健師	・県の統括保健師から市町の統括保健師への周知を依頼 ・各市町村の統括保健師に周知依頼 ・都道府県、政令市の統括保健師長に協力を依頼し、ニーズ確認や打ち合わせ会を実施
都道府県	・県行政（厚生部医務課）から県内すべての市町村へ協力依頼の文書を発出依頼
職能委員会	・保健師職能委員会にイベントについて説明。タイムリーに取り組み状況等について経過報告を行い、情報を共有

2） 対象の絞り込み

関係者から情報を収集し、「来年度の採用予定がある自治体」、「保健師が不足している自治体」、「求人情報を掲載している自治体」に絞ってアプローチをしたケースも功を奏していた。その場合、県協会から直接声をかける場合と、関係者・関係機関からに周知を依頼する場合が見られた。

表：対象の絞り込み

情報収集先	収集内容
・都道府県の保健師人材確保部署 ・都道府県の統括保健師	・次年度採用予定がある自治体情報
・保健師職能委員会 ・保健師職能委員長 ・保健所統括保健師	・保健師の就職状況 ・保健師が不足している/人材確保が困難な自治体情報
・ナースセンター	・非常勤保健師等の求人募集情報

3） 自治体への丁寧な説明/情報共有

PR に慣れていない自治体ではノウハウがあまりないことから、参加者が何を望んでいるのか、自分は何を準備すれば良いのかがわからず、参加を検討する際に不安を感じていた。県協会によっては、イベントについての説明会をオンライン等で実施したり、丁寧な説明を行っていた。

具体的には、県協会にて十分に準備することや当日支援もすることを伝えていた。申込開始後は、参加者からの事前質問を共有し、自治体が準備・持参するもの（パンフレットやチラシ等）についても説明していた。また、イベントの開催に向けて、申込者数とその属性について自治体に継続的に情報提供していた県協会もあった。

このような丁寧な説明・情報共有の結果、参加を決めた自治体があった。また、参加予定自治体の場合も、主催者側の意向が浸透し、お互いのアイデアを共有するなど自治体の積極性が高まったケースがあった。

表：参加自治体への事前説明/情報共有

自治体との共有内容	効果
【事前】 ・参加者からの事前質問 ・（相談ブース設営において）自治体が準備・持参するもの 【定期】 ・イベント申込者数/その属性	・自治体が参加を決めた ・自治体と県協会で具体的なイメージ共有ができた ・お互いのアイデアを共有できた ・参加自治体の積極性/意欲が向上した

4） 人材確保担当部署への働きかけ

自治体に「自治体保健師の人材確保に向けて今後必要と思う取り組み」について聞いたところ、他の項目と並び「所属自治体の人材確保部門との情報・課題共有、人材確保策の検討」が選択された（138件）。また、寄せられた意見のうち、「自治体の人事担当部局にも連絡があれば自治体全体として取り組むきっかけとなる」という回答もあった。

今回のイベントでは、自治体の人事部門に直接働きかけたケースは見られなかったが、保健師の人材確保に自治体全体で取り組む際には、人材確保担当部署との連携が効果的であり、そのきっかけとなるようなアプローチも有効と考える。

参加自治体募集に関するポイント

■関係者から情報を収集し、ニーズが高い自治体を絞り込む

■募集の際、参加に対する自治体の不安を取り除くような説明が大切

→参加者情報や当日のイメージを具体的に伝える

■自治体の人材確保担当部署にもあわせて声をかける

→自治体内の連携がスムーズに

9. 運営の工夫

2023 年度のイベントは原則、全都道府県共通のプログラムで運営していたが、会場によって、参加者や参加自治体数などの状況が異なった。個別の状況に対応するため、県協会においてはプログラムや運営について様々な工夫を行っていたため紹介する。

1） 会場設営

各会場において、意図をもって「会場レイアウト」が組まれていた。また、各自治体の特色が出るよう「各相談ブースの装飾」を工夫していた。参加者が和やかに相談できるよう「雰囲気づくり」にも工夫がみられた。

(1) 会場レイアウトの工夫

目的をもって会場のレイアウトを工夫していた。(参考資料 p85)

例えば、二次保健医療圏を参考に「各自治体のお仕事相談ブース」を配置し、近い地域を回れるよう工夫していた事例がみられた。また、参加者同士や職能委員との交流を促す目的から、会議室中央に自由席を設け、お菓子や飲み物をとりながら、相談ブースの順番待ちができる場所を設置するなどの工夫が行われていた。

目的	方法
参加者が近い地域を回りやすくする	二次保健医療圏を活用した配置
参加者/職能委員との交流・憩い	自由席を中央に設置 （相談ブースの順番待ち/休憩）

(2) 相談ブース装飾の工夫

「各自治体のお仕事相談ブース」について、自治体に事前の準備を依頼し、それぞれの特色があらわれたブースが多数みられた。(参考資料 p86~87)

相談ブースに準備したもののとしては、「パネル/ホワイトボード」「ポスター」「ＰＣでの動画」「自治体キャラクター着ぐるみ」などが挙げられた。

その結果、「各自治体の特徴を掲示してアピールできた」「視覚からの理解も深めることができ、会場の雰囲気に活気がでた」などの効果が得られた。

表：相談ブース装飾の工夫

相談ブースに準備したもの	効果
・パネル/ホワイトボード ・ポスター ・ＰＣでの動画 ・自治体キャラクター着ぐるみ ・のぼり旗/看板（ブース名） ・リーフレット 等	・各自治体の特徴や活動の様子などを掲示してアピールすることができた ・視覚からの理解も深めることができ、会場の雰囲気も活気がでた

(3) 雰囲気づくり

会場の雰囲気を和やかなものにするよう、相談会の際に静かな音楽を流したり、会場を風船等で飾り付けたりするなどの工夫がみられた。また、都道府県かんごちゃんを活用し、着ぐるみの着用やキャラが印刷されたエコバックを配布したケースもみられた。(参考資料 p88)

2) 参加できなかった自治体/関連情報の提供

(1) 参加できなかった自治体の情報提供

当日の参加は難しい自治体に対しては、自治体の広報媒体等を会場に配置するなどの対応をしていた。

県協会によっては、ブースを設置しない市町村の情報も含め、都道府県内の自治体の特色について紹介する冊子を作成し、会場で配布していた（参考資料 p89）

(2) 関連資料の配布/閲覧コーナーの設置

参加できなかった自治体の情報のみならず、保健師や自治体に関する資料を広く配布もしくは閲覧できる場所を設けていた。

具体的には、「自治体の就職情報」「ナースセンター関連資料」「都道府県の保健師就学資金貸付事業（奨学金）案内」を配布していた。

県協会によっては、自治体保健師の活動場所やインタビューを掲載した資料を作成し、会場で配布していた。(参考資料 p89)

また、能登半島地震の保健師支援の写真を展示していた会場もみられた。

表：参加できなかった自治体/関連情報の提供

提供情報	方法
・自治体の就職情報 ・ナースセンター関連資料 ・都道府県の保健師就学資金貸付事業（奨学金）案内	既存資料の配置・配布
・自治体保健師の活動場所やインタビュー	県協会にて資料作成→配置・配布
・能登半島地震の保健師支援の写真	会場内に展示

3) その他

以上のほか、イベント終了後に質問を受け付け、「フォローアップ」を行った県協会もみられた。その県協会では、問い合わせ用連絡先を案内した結果、問い合わせメールがあり情報提供につながっていた。

また、このイベントを機に、「県協会の活動を PR」していたケースもみられた。相談会で待っている参加者や自治体に協会事業への関心を持ってもらえるよう、協会事業の写真等をパワーポイントにまとめ、会場に放映していた。

10. 予算の確保

このほか、今後同様のイベントを実施する際に考えられる課題や対応策について県協会に聞いたところ、予算の確保が挙げられた。

今回、大人数やアクセスの良い会場の費用、遠方の自治体の旅費などが高額となり、費用負担が大きかったことが課題となった。

今後同様のイベントを行う際の予算の確保策としては、看護の日のイベント等 別イベントとの併催、県からの委託事業としての実施などの対応が挙げられる。

Ⅳ. 今後の自治体保健師人材確保に向けた魅力・情報発信の方策について

1.　自治体保健師確保における看護協会と自治体の役割

地域住民が安心して生活できるよう自治体保健師を確保し活躍を促進することは、自治体及び看護協会が共に目指す姿である。この実現に向けては、両者が得意とすることを整理し、連携することが重要である。本イベントの実施をとおしてみえた自治体と看護協会の役割を整理する。

まず、看護協会は、保健師全般に関する情報の発信や相談対応を担った。第一部の情報発信では、都道府県や市町村、へき地など保健師の活動内容や役割について説明した。第二部の「なんでも相談ブース」は主に都道府県看護協会職能委員が対応し、個別の自治体相談ブースでは質問しづらいような、保健師全般に関する相談やキャリアの悩みに答えていた。また、相談者の希望を聞き、適切な自治体ブースにつなげていたケースもあった。

自治体は、「各自治体のお仕事相談ブース」において経験を交えながら相談に応じ、その自治体の特色を発信していた。その結果、参加者はそれぞれの自治体の魅力や保健活動の特徴を学ぶだけでなく、複数の自治体から話を聞くことにより、地域全体の魅力を感じていた。都道府県の協力が得られた県協会では、県内の市町村への周知が効果的に行われ、県内自治体の人材確保状況についての情報を取得していた。

これらのことから、看護協会と自治体の得意とすることを整理すると、看護協会は社会における重要性や専門性を含め、保健師の役割や魅力について発信することがあげられる。一方で自治体は、その自治体の特色や保健活動の特徴を、経験を交えながら具体的に伝えることができる。

個人が自治体保健師を目指す道のりには段階があり、その段階によってニーズが異なる。具体的には、まず保健師という職業を知り、働く場の一つである自治体にはそれぞれ異なる特徴があることを理解し、最後に自身の意向を踏まえて希望の自治体を選択する。本イベントにおいては、看護協会と自治体が連携することで、結果として様々な段階にある参加者の異なるニーズに対応することができた。

個人が自治体保健師を目指すまでのそれぞれの段階で適切にサポートを受けることが必要であり、そのためには、看護協会と自治体がそれぞれの得意な点を活かし、連携することが重要と考える。

看護協会と自治体の役割

- 地域住民が安心して生活できるよう自治体保健師を確保し活躍を促進することは、自治体及び看護協会が共に目指すべき姿
- 個人が自治体保健師を目指すまでには段階があり、その段階によってニーズが異なる。
  →看護協会と自治体がそれぞれの得意な点を活かし、連携することが重要
  ・看護協会：保健師そのものの役割・魅力を伝えること/個別の自治体に限定しない相談対応
  ・自治体：その自治体の特色や保健活動の特徴を、経験を交えながら具体的に伝えること

V. まとめ

本会では、自治体保健師の人材確保に向け、2021 年度から 23 年度にかけてその魅力や情報を発信するイベントを実施してきた。3 年間のうちオンラインと対面の両方で開催し、総勢約 4,000 名の参加があった。本報告書は、2023 年度の事業の結果を中心にまとめ、今後同様のイベントを実施する際の参考となるような事項についてまとめた。

本イベントの参加者は、現役の自治体保健師から経験を交えた話を聞くことができ、具体的なイメージがつかめたことを評価していた。一方で、看護師を目指す学生であっても、自治体保健師について知る機会が少ない状況にあり、授業や学校の中で学ぶ機会はあっても、実際に働いている姿を想像できるような「リアル」な情報を得る機会が少ないことがわかった。2023 年度に自治体保健師との相談会を実施した結果、自治体保健師を目指す上で生じる疑問や不安が解消でき、将来や進路選択のイメージがつかめたといった感想が寄せられた。

また、2023 年度は、県協会の協力を得て、多くの自治体が参加してのイベント実施となった。同じ都道府県内にいても参加者にとっては知らない自治体があり、参加者は様々な自治体と出会い、特定の自治体の理解を深めるだけでなく、地域全体の魅力を理解することにつながっていた。

参加自治体にとっても、実習や採用試験とは異なる場で、参加者のニーズを把握する機会となり、あわせて複数の自治体が集まることにより、他の自治体の PR 方法や採用状況について情報を共有する場となっていた。

繰り返しになるが、個人が自治体保健師を目指すまでのそれぞれの段階で適切にサポートを受けることが必要であり、そのためには、看護協会と自治体がそれぞれの得意な点を活かし、連携することが重要だと考える。

自治体保健師は地域に出て住民の生活を支える仕事であり、志す人も地域志向が高い。そのため、それぞれの地域の特徴に応じて、地域の関係機関と連携し同様のイベントが実施されることが効果的だと考える。本報告書を参考に、自治体保健師の人材確保に向けた地域での取り組みがより一層推進されることを期待する。

以 上

別添

1. 2021 年度 自治体保健師の仕事説明会
「ここでしか聞けない保健師の仕事のコト」 ・・・・・・・・・・ P41

2. 2022 年度 自治体保健師の仕事説明会
「ここでしか聞けない保健師の仕事のコト」 ・・・・・・・・・・ P44

3. 2023 年度 自治体保健師の活動内容や魅力発信のためのイベント
「地域で働く保健師の魅力～自治体保健師に聞いてみよう」 ・・・・・・・・・・ P49

1） 参加者アンケート結果 ・・・・・・・・・・ P49

2） 相談ブースアンケート結果（自治体、なんでも相談ブース） ・・・・・・・・・・ P58

3） 県協会事業報告書 ・・・・・・・・・・ P68

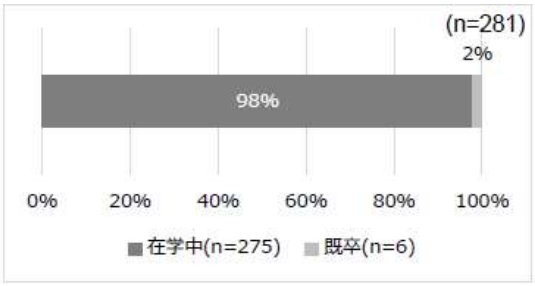
1. 2021 年度 自治体保健師の仕事説明会「ここでしか聞けない保健師の仕事のコト」

1 ） 参加者アンケート結果

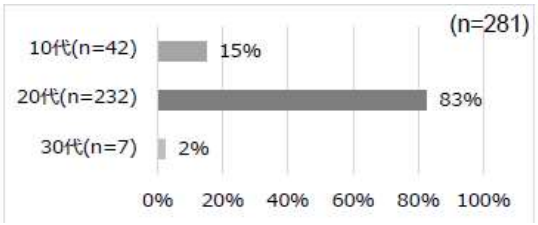
イベント終了後、参加者にアンケートへの回答を依頼した。

・回答者数：281 名（回収率 37.5%）

・属性



・年代



・住所地の都道府県

北海道・東北地区(33人)							関東・甲信越地区(87人)									東海・北陸地区(32人)					
北海道	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	新潟県	山梨県	長野県	富山県	石川県	福井県	岐阜県	静岡県	愛知県	三重県
3	4	5	13	2	2	4	9	8	6	11	19	10	11	3	3	7	2	6	2	5	0	13	4

近畿地区(50人)						中国・四国地区(40人)								九州・沖縄地区(39人)							計
滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県	鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	徳島県	香川県	愛媛県	高知県	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県	
5	11	19	14	0	1	0	2	6	13	1	0	6	12	0	23	4	2	4	2	2	0	2	281

質問 1：開催時期について

「ちょうどいい」が 187 人（67%）と最も多く、「もっと早いほうがいい」94 人（33%）が次に続いた。

※「もっと早いほうがいい」と答えた人に具体的な開催月を聞いた結果、「3 月」51 人（54%）、「2 月」24 人（26%）、「1 月」10 人（11%）、「その他の月」9 人（9%）であった。

質問 2：参加しやすい開催方法について（コロナ禍でない場合も想定して回答）

「オンライン参加」が 268 人（95%）となり、「現地参加」は 13 人（5%）であった。

質問 3：この説明会に参加した理由

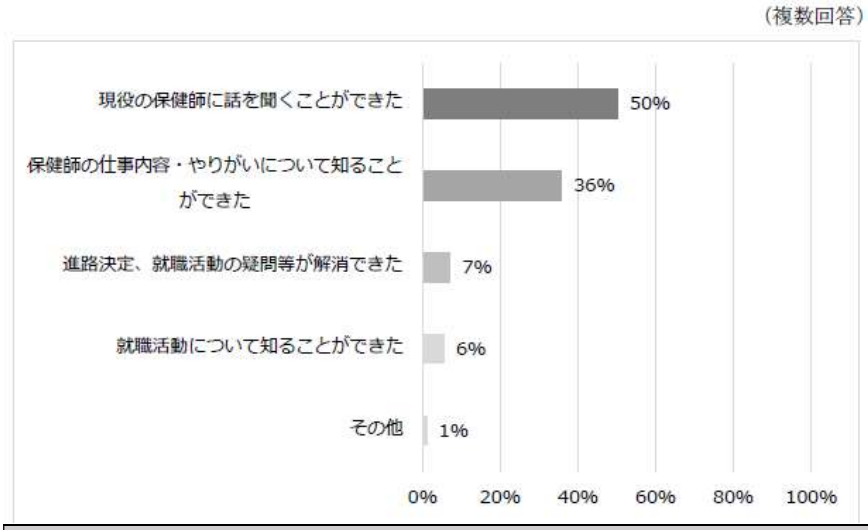
「自治体保健師として、就職を希望している」が 176 人（62.6%）と最も多かった。次に「自治体保健師の仕事に興味がある」87 人（31.0%）が続き、「学校等で勧められ、なんとなく参加した」は 15 人（5.3%）であった。その他は 3 名（各 0.4%）

質問 4：プログラムは、今後の進路決定、就職活動にむけ参考となる内容であったか

「とても参考になった」148 人（53%）と「参考になった」128 人（46%）が大半を占めた。「あまり参考にならなかった」は 5 人（2%）。

「とても参考になった」「参考になった」と回答した方は、どういったところが参考になったか。(自由記述)

以下の 5 つに分類された。①「現役の保健師に話を聞くことができた」②「保健師の仕事内容・やりがいについて知ることができた」③「進路決定、就職活動の疑問等が解消できた」④「就職活動について知ることができた」⑤「その他」の 5 つに分類された。



■現役の保健師に話を聞くことができた
・実際の経験やエピソードを加えながら話してくれた。 ・若い年代の保健師の話を聞くことができ、自分が入った時のイメージがついた。 等
■保健師の仕事内容・やりがいについて知ることができた
・町村保健師と都道府県保健師の魅力や違いを知ることができた ・具体的な保健師の仕事とスキルアップについて知ることができた。 等
■進路決定、就職活動の疑問等が解消できた
・自分と同じような悩みを抱えている人が多く、その意見を聞くことで新しい情報を知ることができた。 等
■就職活動について知ることができた
・保健師業務についてだけでなく、勉強方法などについても知ることができたため、良かったと思う。 等
■その他
・座談会は色々な部屋の話を聞けるともっと良かった。等

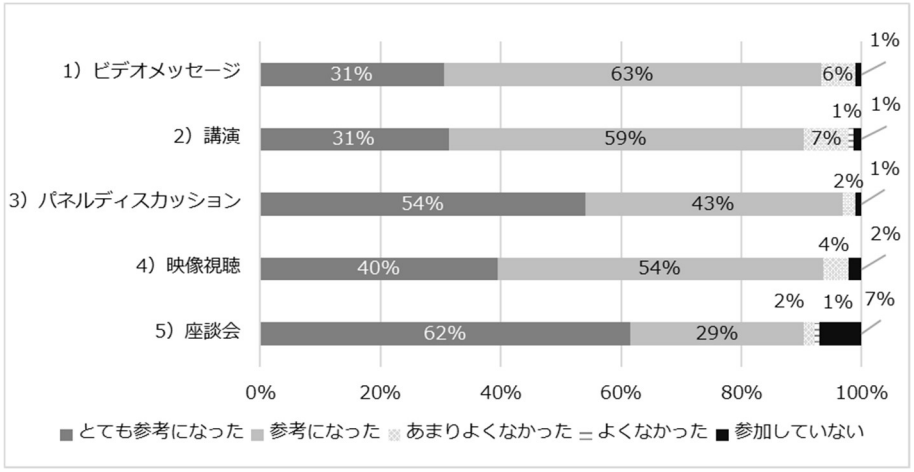
「あまり参考にならなかった」「参考にならなかった」と回答した方は、どういった内容があれば参考になるか(自由記述)(抜粋)

・コロナウイルス対策に着目した話が多くあり参考になった一方で、それ以外の保健活動についてもっと知ることができたらよかった。

質問 5:各プログラム、座談会について

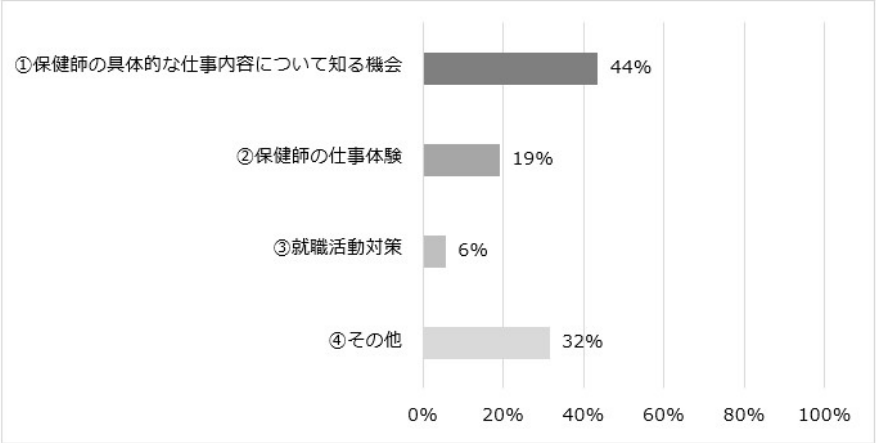
全てのプログラムにおいて「とても参考になった」「参考になった」が全体の 9 割以上を占めた。特に、「とても参考になった」の回答者数割合をみてみると、「5)座談会」173 人 (62%) と「3)パネルデ

ィスカッション」152 人（54%）が多かった。



質問 6:今回のような説明会を含め、今後、どういった機会があれば、自治体保健師への就職を考えるきっかけになると思うか（自由記述）

大きく、①「保健師の具体的な仕事内容について知る機会」②「保健師の仕事体験」③「就職活動対策」④「その他」の四つに分類された。



■保健師の具体的な仕事内容について知る機会
・今回の座談会のように双方向で保健師と話せる機会がもっとあれば良い。 ・各自治体の特徴や取り組みを知ることができる機会があれば、自治体選びの参考になる。等
■保健師の仕事体験
・今回のような説明会に加え、実際に保健師の仕事を見学、体験できる機会があればよい。 等
■就職活動について知る機会
・同じ年代の人同士で今のコロナ禍での保健師の就職活動について情報交換したかった。 ・採用試験についてのアドバイスといった説明会 等
■その他
・動画で自治体保健師の活動を 47 都道府県別で紹介する。 ・オンラインだけでなく現地でも開催し顔を合わせることで質問等がしやすくなる。 ・看護学部の生徒への出張講演をしてほしい。 ・大学内の保健師コースの受験をする前の学生に保健師について伝えてほしい。 ・自治体保健師に関わる情報を高校生に啓発する。 等

2. 2022 年度 自治体保健師の仕事説明会「ここでしか聞けない保健師の仕事のコト」

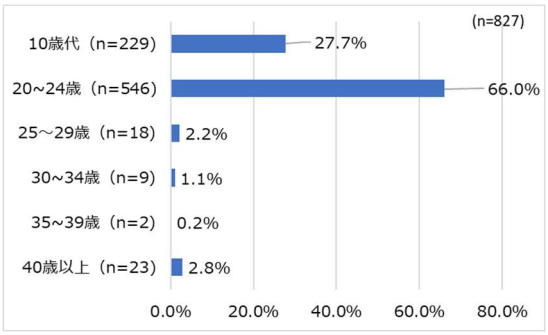
1 ） 参加者アンケート結果

・回答者数：827 名（回収率 46.8%）

・属性

項目	回答
在学中	798
看護師・助産師として就労中	2
看護師・助産師資格を有しているが現在就労していない	1
保健師として就労中	6
保健師資格を有しているが現在就労していない	5
教員	4
日本看護協会関係者（県協会、保健師職能委員）	8
その他（自由記載）	3

・年代



・住所地の都道府県

北海道・東北地区（124人）							関東・甲信越地区（282人）										東海・北陸地区（87人）						
北海道	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	新潟県	山梨県	長野県	富山県	石川県	福井県	岐阜県	静岡県	愛知県	三重県
32	17	17	17	12	10	19	23	16	30	33	38	47	39	20	15	21	5	10	1	21	6	37	7

近畿地区（86人）						中国・四国地区（141人）									九州・沖縄地区（107人）								計
滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県	鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	徳島県	香川県	愛媛県	高知県	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県	
11	17	27	17	5	9	5	6	14	38	18	12	14	15	19	28	6	22	13	11	9	8	10	827

質問 1：開催時期について

「ちょうどいい」が 724 人（87.5%）と最も多く、「早い方がいい」が 101 人（12.2%）、「遅い方がいい」が 2 人（0.2%）となった。

※開催を希望する月を具体的に聞いたところ、「3 月」が 57 人（44%）と最も多く、「4 月」43 人（33%）、「2 月」12 人となった。「その他」16 人（14%）（自由回答のため、ちょうどいいと答えた人からの回答も含まれた）

質問 2：最も参加しやすい開催方法について（コロナ禍でない場合も想定して回答）

「オンライン参加」が 612 人（74.0%）となり、「YouTube 視聴」が 194 人（23.5%）、「現地参加」は 21 人（2.5%）となった。

質問 3：この説明会に参加した理由（単一回答）

「自治体保健師として、就職を希望しているから」が 402 人（48.6%）と最も多く、「自治体保健師の仕事に興味があるから」361 人（43.7%）が続いた。「学校等で勧められ、なんとなく参加しようと思ったから」は 40 人（4.8%）、「保健師として就労しているが、転職を検討しているから」は 1 人（0.1%）。

「その他」は 23 人（2.8%）として、「学校で保健師課程に進もうか迷っているから」「看護師と保健師で迷っているから」「保健師という職業自体に興味があるから」等が挙げられた。

質問 4：この説明会を知った理由（単一回答）

「学校からのチラシ」が 766 人（92.6%）と最も多かった。「知人からの情報」は 29 人（3.5%）、「日本看護協会ホームページ、日本看護協会公式 SNS」は 17 人（2.1%）、「e ナースセンター ホームページ」は 4 人（0.5%）。

「その他」は 11 人（1.3%）として、「県看護協会からの通知」「看護協会等からのチラシ」「学校の先生から推薦されたため」等が挙げられた。

質問 5：全体を通して、今後の進路決定、就職活動にむけ、参考となる内容であったか

「とても参考になった」471 人（57.0%）と「参考になった」333 人（40.3%）が大半を占めた。「あまり参考にならなかった」は 23 人（2.8%）。

「とても参考になった」「参考になった」と回答した方は、どういったところが参考になったか（自由記述）（抜粋）

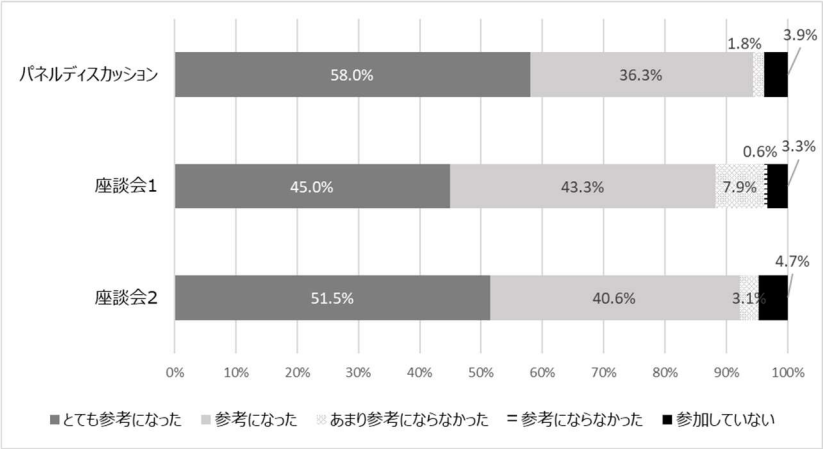
・様々な地域にて現役で働いている方の声を聞く事ができ、保健師の仕事の魅力を改めて感じた。就職試験へのモチベーションがより上がった。
・県と市区町村の保健師の違いがあまりよく分からなかったので、この機会に理解できた。
・看護師をしてから保健師になりたいと考えていて、看護師での経験が保健師の仕事の中で活かされた部分について話を聞くことができてよかった。

「あまり参考にならなかった」「参考にならなかった」と回答した方は、どういった内容があれば参考になると思うか（自由記述）（主な意見）

・就職したい自治体により近い話を聞きたいため、各県の保健師の方々のお話があれば良い。
・パワーポイントでポイントをまとめてもらえるとわかりやすかった。どこが重要なのか、魅力が伝わりにくかった。

質問 6:各プログラムについて

全てのプログラムにおいて「参考になった」が全体の約 9 割を占めた。「あまり参考にならなかった」の割合を見ると、「座談会 1」が 7.9%と若干多い結果となった。



①【パネルディスカッション】

「とても参考になった」「参考になった」

・若手から管理職まで様々な保健師の考え方を知ることができたから。

・入職後の教育の仕方がわかって少し安心した。

「あまり参考にならなかった」

・お話ししてくださった方の内容が似通っていたから。

②【座談会 1】「うちの地域の魅力、保健活動の魅力をお伝えします！」

「とても参考になった」「参考になった」

・地区ならではの魅力や保健活動の特徴について知ることができたから。

・地域の人々に寄り添った支援について、実際の体験を踏まえて詳しく聞けた点がよかった。

・地元に戻って働いた人、興味を持った土地で働く人、様々な考えをもってそれぞれの地域で働いており多種多様な働き方を学ぶことが出来たところ。

「あまり参考にならなかった」「参考にならなかった」

・就職したい自治体により近い話を聞きたいため、各県の保健師からのお話があれば参考になる。

・パネルディスカッションの内容と重複する部分があったため。

③【座談会２】「現役保健師と話そう！聞いてみよう！」

「とても参考になった」「参考になった」

・市や区、都道府県の保健師の業務の違いについて知ることが出来たため。

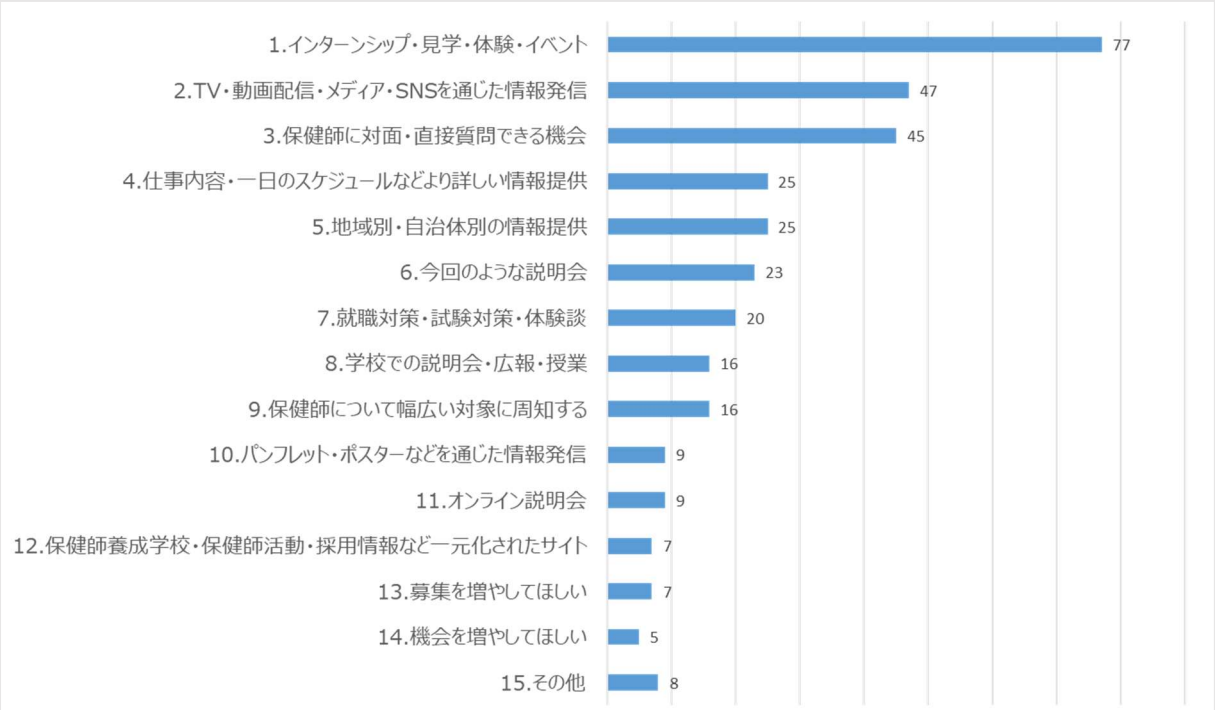
・保健師になったメリットやデメリット、保健師になってよかったと思ったことなどを聞けてよかった。ブースごとにお話をしてくれる人が違ったのも良かった。

・看護師から保健師になられた方がどのような経路で保健師になったのか詳しく聞くことができてよかった。保健師と看護師との違いについても理解が深まった。

「あまり参考にならなかった」

・もう少し深掘りした話が聞きたかった(自分が質問に書いたことは何も触れられなかった)
・座談会 1 とお話ししていただける方が一緒のところは、同じ話を 2 回聞いているような感じだった。

質問 7:今回のような説明会を含め、今後、どういった機会があれば、自治体保健師への就職を考えるきっかけになると思うか（自由記載）



■インターンシップ・見学・体験・イベント
・1 日看護師体験のように保健師体験ができると良い。 ・実際の仕事現場などが見えるとよりイメージしやすくなり就職のきっかけになると思う。 等
■TV・動画配信・メディア・SNS を通じた情報発信
・保健師はどのような業務をしているかイメージがつきにくいため、1 日密着動画とかドキュメンタリーとかで取り上げてもらうと良い。 ・保健師にしかない魅力の動画を公開する。 等
■保健師に対面・直接質問できる機会
・都道府県ごとにオフラインで開催し、一対一で直接話せる機会。 ・保健師の話を聞く中で生まれる疑問を直接質問できるような機会があれば良い。 等
■仕事内容・福利厚生・就職先などより詳しい情報提供
・新卒の自治体保健師への具体的なサポート体制を知る機会。 ・政策を作るまでの道のりの紹介。 ・保健師資格を習得した後の就職先や働き方の様々な例を知る機会。 等
■地域別・自治体別の情報提供
・オンラインで大人数の参加だったので、各県ごとなど少し規模を小さくしていくとより自分が就

職したい自治体の話が聞けて参考になるのではないか。 等
■今回のような説明会
・今回のような実際に働く保健師の方からお話を聴く機会。特に質問に回答していただけると様々な情報を得ることができるため、興味が湧くだけでなく、就職を考えやすくなると思う。
■就職対策・試験対策・体験談
・保健師国家試験についてと就職までの道のりを具体的に説明してほしい。 ・自治体保健師の採用試験時のエピソードを聞く機会が欲しい。面接のポイントや国家試験と公務員試験の勉強の両立のコツなど。 等
■学校での説明会・広報・授業
・先輩保健師と出身学校でお話しできる機会があったら良い。 ・今回のような説明会を看護大学などの医療系の学校で開催する。 等
■保健師について幅広い対象に周知する
・大学の保健師選抜前、具体的には 1～2 回生にも積極的に説明会を周知する。 ・高校生の進路決定の時期に学校などで保健師の方の話を聞く機会があれば、きっかけになる。 等
■パンフレット・ポスターなどを通じた情報発信
・説明会が 1 番良いと感じるが、パンフレット形式にして配布すればいつでも見返すことができるうえ、目につくので良いと感じる。 等
■オンライン説明会
・看護学生は特に実習や試験、課題などで自由な時間が限られているため、引き続き今後も今回のようにオンラインや動画配信型だと嬉しい。 ・オンラインは色々な地域の方のお話が聞けるのでとてもいいと思う。 等
■保健師養成学校・保健師活動・採用情報など一元化されたサイト
・就職情報の集約や一元化などをして、採用情報を参照しやすくする。 ・各地の保健所で行っている活動を見られたり、保健師募集のお知らせをもっと気軽に知れるサイトがあれば知りたい。 等
■募集を増やしてほしい
・就職しやすくなればいいなと思う。採用人数が少ないのでなかなか難しいハードルが高いとやめてしまう友人が多い。 ・大学の保健師コースの選抜人数が増えれば自然と自治体保健師への就職を考える人が多くなると思う。 等
■機会を増やしてほしい
・今回のような説明会を年に何回か開催していただけると、保健師について知る機会が多くなると思う。 等
■その他
・保健師を目指す学生同士での交流。 ・大規模な会場での説明会、看護師の就職説明会にも保健師コーナーを設置するのも良いと思う。等

3. 2023 年度 自治体保健師の活動内容や魅力発信のためのイベント「地域で働く保健師の魅力～自治体保健師に聞いてみよう」

1 ）参加者アンケート結果

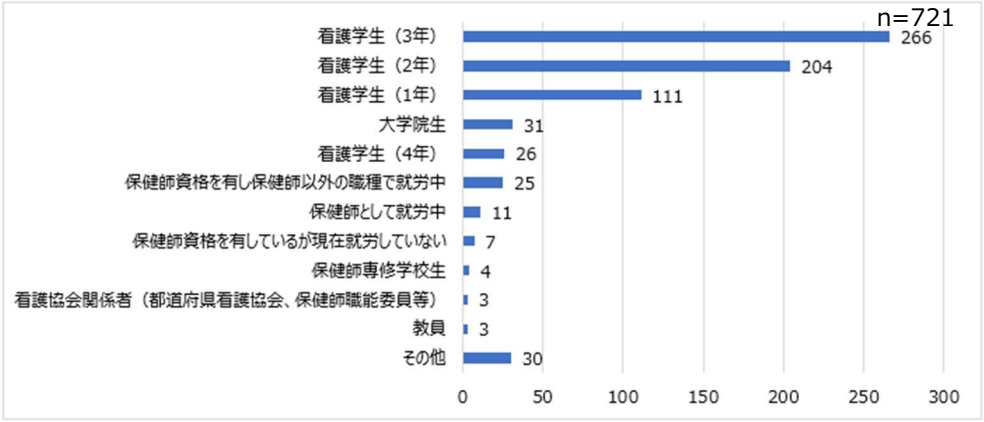
本イベントの参加者に回答を依頼した。

・回答者数：721 名（回収率 50.2%）

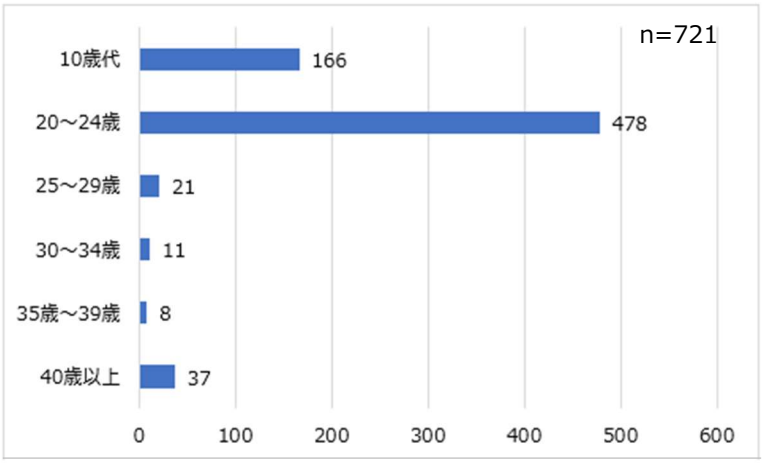
・回答者の参加会場

北海道・東北地区（60 人）						関東・甲信越地区（156 人）									東海・北陸地区（143 人）							
北海道	青森県	岩手県	秋田県	山形県	福島県	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	山梨県	長野県	富山県	石川県	福井県	岐阜県	静岡県	愛知県	三重県	
8	8	15	15	9	5	6	11	21	16	22	30	11	9	30	34	16	7	21	15	37	13	
近畿地区（94 人）						中国・四国地区（132 人）									九州・沖縄地区（136 人）							計
滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県	鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	徳島県	香川県	愛媛県	高知県	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県	
7	21	20	22	9	15	30	20	13	18	3	14	13	15	6	15	16	7	14	24	17	4	39	721

・属性



・年代



質問 1：このイベントを何で知ったか（複数回答）

「学校（教員）からのチラシ・連絡」が 634 件と最も多く、「県協会からのチラシ・連絡」43 件が次に続いた。「知人等からの口コミ」が 29 件、「県協会ホームページ、県協会公式 SNS」が 20 件、「日本看護協会ホームページ、日本看護協会公式 SNS」が 19 件、「e ナースセンターホームページ」が 4 件、「その他」が 16 件であった。

質問 2：このイベントに参加しようと思った理由（複数回答）

「自治体保健師の仕事に興味があるから」が 622 件と最も多く、次いで「自治体保健師としての就職を希望しているから」378 件が多かった。「保健師教育を専攻するか迷っているから」は 151 件、「地域の自治体保健師に直接相談したいから」は 136 件、「保健師として就労しているが、転職を検討しているから」は 9 件、「その他」が 21 件であった。

質問 3：開催時期について（単一回答）

開催時期について、約 8 割が「ちょうど良い」と答えた。(598 人、82.9%)「もっと早い時期が良い」と回答したのは 107 人（14.8%）で、「もっと遅い時期が良い」と回答したのは 7 人（1.0%)、その他が 9 人（1.2%）であった。

質問 4: 第一部「自治体保健師の活動内容や魅力発信のための Web イベント」(講演、座談会）はどうだったか（単一回答）

全体の約 6.5 割が「満足」と回答しており（470 人、65.2%)、「やや満足」(217 人、30.1%)も加えると 9.5 割に上る。「やや不満」は 19 人（2.6%)、「不満」は 1 人、0.1%、「参加していない」は 14 人（1.9%）であった。

①満足だったところ（自由記述）

「満足」「やや満足」と回答した理由を自由記述で聞いた。その内容を分類したところ、主に「都道府県、市町村、へき地の違いを知ることができた」「現役の保健師から話が聞けた」「自治体保健師の魅力・やりがいが伝わった」ことが挙げられた。

以下、回答内容を分類し、共通して見られた回答の抜粋。

■都道府県、市町村、へき地の違いを知ることができた
・都道府県、市町村、へき地と異なった視点の話の中で、共通する点やその仕事ならではの面白さ、特徴が分かりやすく、自分の将来を考える上で有益な情報をもらえたと感じた。(看護学生 2 年) ・都道府県、市町村、へき地の 3 分野それぞれの仕事内容や特徴、やりがいなど比較して考えやすかった。(看護学生 3 年) ・講演会で各自治体の違いについて知った後、実際に各自治体で働いている保健師と話をすることで、より保健師の仕事内容の違いなどを知ることができた。(看護学生 3 年)　等
■現役の保健師から話が聞けた
・保健師活動の実際について知れただけでなく、保健師の仕事に対する熱意ややりがい、大変なこととその乗り越え方などリアルな声を聞くことができ、学びが深まった。(看護学生 3 年) ・魅力だけでなくイメージとのギャップなど実際に働いている方々だからこそ伝えることが出来る

内容が多かった。（看護学生 1 年）
・学校の授業だけでは学べない、保健師の生の声を聞けた。（看護学生 2 年）
・実際に聞くことが難しい保健師の生の声を聞くことが出来た。（看護学生 2 年） 等

■自治体保健師の仕事内容・魅力・やりがいが伝わった

・保健師の仕事が分かり、とてもためになった。地域の人の健康を支えるという点で保健師の魅力が分かった。（看護学生 3 年）
・現在看護師として就労中。保健師の仕事の魅力がわかった。今まで漠然と、デスクワークが多くやりがいが感じられるかわからなかったが、地域を守るものとして地域の方々に直接、間接的に関わることができる魅力のある仕事だと思った。（保健師資格を有し保健師以外の職種で就労中）
・都道府県、市町村、へき地それぞれの魅力が伝わり保健師になりたいと強く思えたのと将来の保健師像を考えた時に少しわくわくした。（看護学生 1 年）
・これまでは頭の中ではっきりと思い浮かべることが出来なかった保健師像を実際の方々の話を聞くことで理解を深められた。（高校生） 等

■進路・将来の参考になった

・保健師の仕事内容がよくわかっておらず、専攻するか迷っていたが、色々な方の話を聞いて、保健師としてのやりがいを知ることができた。（看護学生 1 年）
・就職して保健師として働くイメージが出来た。就職に関する情報が得られた。（看護学生 2 年）
等

■説明が丁寧・わかりやすかった

・あまり詳しくわからない状態で行ったが、とても詳しく説明していてわかりやすかった。（高校生）
・会場内の雰囲気もよく、自治体保健師の方々が魅力を十分に発信し、司会の方が講演や質問に対する返答など、それぞれの内容をまとめてわかりやすくフィードバックしていてとても良かった。（看護学生 3 年） 等

■知りたいことを知ることができた

・事前に募集されていた質問について、講師の方々が丁寧に答えてくれた。（看護学生 2 年）
・保健師として活動してきて、自身が考えたこと、直面した問題について具体的な経験をもとに話していたためイメージしやすく、保健師が実際にどのような業務を行なっているか、私の聞きたい内容がほぼ全て詰まっていた。（看護学生 3 年） 等

■自分の居住地以外の話が聞けた

・他県の保健師の仕事について、本来であれば直接その場に行くことでしかきけないことかもしれないのに、オンラインで話を聞けたことが嬉しかった。（看護学生 2 年）
・全国の自治体の話を聞くことが出来て、地域特性と新たな魅力の発見に繋がった。（保健師として就労中） 等

②不満だったところ（自由記述）

「やや満足」「やや不満」「不満」と回答した者のうち、不満に感じた理由で共通して見られた回答を抜粋した。

■興味のある自治体の話ではなかった

・それぞれの会場ごとの自治体の話だと思っていたが、そうではなかった。（大学院生）

・参加会場の県で働いている人の話を聞けると思っていた。(看護学生 3 年) 等

■内容が希望と異なった

・産業保健などについても知りたかった。(看護学生 2 年)
・就職して 3.4 年くらいで最近就職した人の話が聞けるとこれから先どんなことを勉強した方がいいのか、身につけたいことなどが具体的に分かる。(看護学生 2 年)
・保健師の採用試験や、国家試験の勉強の仕方なども講演で教えて欲しかった。(看護学生 1 年) 等

■開催方法が希望と異なった

・学校の予定で途中からしか参加ができなかったため、Web で見られるようにしていただければ最初から見ることができた。(看護学生 3 年)
・直接話を聞けると思ったが、映像を流している様子だったので少しがっかりした。(看護学生 3 年) 等

質問 5: 第二部「自治体保健師との相談会」の「各自治体のお仕事相談ブース」について (単一回答)

「満足」が 467 人 (64.8%) と最も多く、「やや満足」146 人 (20.2%) と合わせると全体の約 8.4 割を占める。「やや不満」は 18 人 (2.5%)、「参加していない」が 90 人 (12.5%) となり、「不満」は回答がなかった。

①満足だったところ (自由記述)

「満足」「やや満足」と回答した理由を自由記述で聞いた。その内容を分類したところ、主に「知りたいことやわからなかったことに具体的に答えてもらえた」「様々な自治体について知ることができた」ことなどが挙げられた。

以下、回答内容を分類し、共通して見られた回答の抜粋。

■知りたいことやわからなかったことに具体的に答えてもらえた

・授業等では知り得なかった具体的な業務内容や 1 日の様子などを多く知ることが出来た。(看護学生 3 年)
・気になっていたが聞けなかったことや聞いてもいいのかなと思うようなことも聞けた。また各自治体の保健師の雰囲気も感じ取ることができ楽しかった。(看護学生 3 年)
・職場の雰囲気や教育体制の実際など具体的な所まで、直接聞くことでしかなかなか知ることのできない内容も教えて頂き、より深く自治体の魅力などを感じることが出来た。(看護学生 3 年)
・一人ひとりに時間をかけ、じっくりと相談にのってもらえたので、不安に思っていたことがあったが解決することができた。また、自治体ごとの活動内容を知ることができた。(看護学生 1 年)
・相談した内容をより深く膨らませながら教えてもらえた。(看護学生 2 年)
・個別で丁寧に相談に乗ってもらえて、仕事内容だけでなく、試験対策について、自分の興味のある分野のことについても具体的に回答してもらえた。(大学院生)
・市町村の自治体保健師に興味を持っていたので実際に話を聞いて、保健師の仕事のことだけではなく、プライベートや日常のことも話を聞けて良い機会になった。(看護学生 1 年)
・地域それぞれの特徴からどのような仕事をしているか細かく伝えてもらい、保健師の仕事とその町そのものがとても魅力的に思えた。(看護学生 1 年)
・実際現場で働いている方から仕事内容や仕事について考えていることを詳しく知ることができる

機会は今までなかったので、とても貴重な機会となった。（看護学生 1 年） 等

■様々な自治体について知ることができた

・保健師の仕事だけでなく、自治体ごとの特色を知ることができた。（看護学生 2 年）
・参加者がグループごとに各自治体の話を万遍なく聞けた事が良かった。（保健師資格を有し保健師以外の職種で就労中）
・都道府県、政令都市、中核市、市町村のブースでそれぞれの保健師の話を聞くことができ、各箇所での保健師の特徴を掴みやすい工夫がされていた。また各地域の資料をもらい、PR ビデオの視聴もできたことで、それぞれの魅力を直接見聞きし、新鮮に勉強できた。（大学院生）
・自分の興味のある市町村だけでなく、他の市町村の話も聴けるような雰囲気や声掛けが会場内にあり、とてもよかった。（看護学生 3 年）
・具体的な活動内容や、他の自治体との違いを比較できる良い機会となった。（看護学生 2 年） 等

■興味のある自治体の話を聞けた

・働きたい自治体の職員と話をさせてもらえた。既知の内容でも、直接聞く機会はこれまでに無かったため、「実際にそうなんだ」と初めて知るような感覚で、大変興味深かった。（看護学生 3 年）
・就職を考えているので、働いている方から公務員試験の勉強や現在の職場の雰囲気、やりがいなどを直接聞くことができてよかった。（看護学生 3 年） 等

■進路・将来の参考になった

・直接話を聞けて、将来のイメージがより鮮明になった。（看護学生 1 年）
・こちらも各段階の保健師さん達に話を聞けるとともに、困り事から就活の話など気になることをたくさん相談でき、将来のイメージやプランがしやすかった。（看護学生 3 年）
・市町村の保健師の働いている環境やなぜ保健師としてそこで働こうと思ったのか、進路や就職はどれくらいの期間で行ったかを聞くことができ、いい意味で就職や進路について危機感を持つことができた。（看護学生 3 年） 等

■雰囲気が良く、丁寧な対応だった

・話しやすい雰囲気で、普段疑問に思っていることを何でも尋ねることができた。（看護学生 3 年）
・不安なことを相談した時に、保健師さんが自身の学生時代にどうしていたか、また、こうしてみるのもありかも！と親身になって話を聞いてくれた。（看護学生 1 年）
・対応してくれた自治体保健師の方々も話しやすく、質問にも快く答えてくれたので良かった。（看護学生 2 年）
・質問にしっかり返答を頂けたうえに、採用試験の勉強方法なども新卒の人に聞いて来てくれて、学生のことを考えていることが伝わってきた。看護学生（3 年） 等

②不満だったところ（自由記述）

「やや満足」「やや不満」「不満」と回答した者のうち、不満に感じた理由で共通して見られた回答を抜粋した。「時間が短かった・足りなかった」という声が多かった。

■時間が短かった・足りなかった

・各市町村による独自の取り組みや特徴など知ることができたが、時間が短く、すべてのブースを

回ることができなかった。（看護学生 1 年）
・内容はすごく良かったが時間が足りなかった。できたら、全てのブースで話を聞きたかった。（看護学生 2 年） 等

■参加自治体が少ない・希望の自治体が参加しなかった

・仕事内容や採用について知りたかった自治体が無かった。（看護学生 2 年）
・聞きたい自治体がなかった。もっと多く聞くことができると思って申し込んだため、少し残念だった。（看護学生 3 年）
・一県二市のみで、地元の市や他の市の話も聞きたいと思ったので、参加市がもっとあれば尚良かったかと思う。（看護学生の保護者） 等

③「参加しなかった理由」（自由記述）（主な内容を抜粋）

・地元の自治体保健師がいなかった。
・1 年生としては何を質問したらいいのか分からなかった。
・混んでおり参加が厳しかった。
・時間がなかったため。
・事前の自治体の方の話が聞けたので、十分理解できた。保健師の仕事について大まかに分かれば良かった。

質問 6：第二部「自治体保健師との相談会」の「なんでも相談ブース」について（単一回答）

「満足」が 324 人（44.9%）、「やや満足」が 94 人（13.0%）、「やや不満」が 4 人（0.6%）、「不満」が 1 人（0.1%）となった。「参加していない」が 298 人（41.3%）であった。

①満足だったところ（自由記述）

「満足」「やや満足」と回答した理由を自由記述で聞いた。その内容を分類したところ、主に「保健師全般に関することについて聞くことができた」「悩みや不安を相談できた」「知りたいことを具体的に知ることができた」ことなどが挙げられた。

以下、回答内容を分類し、共通して見られた回答の抜粋。

■保健師全般に関することについて聞くことができた

・保健師の仕事について、自治体特有の内容だけでなく全般の内容を聞くことができたことがよかった。（看護学生 1 年）
・保健師になるには、どうしたら良いのか、具体的に知ることができた。（保健師資格を有し保健師以外の職種で就労中）
・実際に地元の話を聞くことができ、なんでも相談コーナーでは歳の近い方からよりリアルな話を聞くことができて、保健師とはどういったものなのかというのを、より知ることができた。（看護学生 1 年）
・保健師を目指すに当たって疑問に思っていることを聞くことができた。（看護学生 4 年）
・他の方々の保健師を目指した理由などを知ることもでき、また臨床の経験があった方がいいかなど疑問が解決できた。（看護学生 3 年）
・無知な自分の曖昧な質問にも丁寧に答えてもらえて、今後の学習にとても役立つ情報や考え方を

教えてもらえた。（看護学生 1 年） 等
■悩みや不安を相談できた
・将来保健師になる上での不安を相談させてもらい、的確なアドバイスをもらえたことにより解決した。（看護学生 2 年） ・保健師という職業に関するざっくりとした質問を受け付けてもらえて、特に不安に思っていたことを相談できてとてもよかった。（看護学生 2 年） ・悩んでいることを相談でき、ブース選びや保健師としてのキャリアデザインの参考になった。（看護学生 3 年） ・進路について保健師か助産師か迷っているという相談にのってくれて、それに対する回答が参考になることばかりだった。（高校 2 年生） ・就活中ではないので、いろんな地域の特色を知るということよりも、自分の相談をしたかった。（保健師資格を有し保健師以外の職種で就労中） ・不安に思わずなんでも聞いて大丈夫と言ってくれたので、聞きやすい雰囲気だった。今抱えている悩みを相談でき、捉え方の幅が広がった。（保健師専修学校生） ・保健師選考を受けるかどうか迷っていたため、保健師として働く上でのやりがいや葛藤、ライフワークバランスについて聞けたので、自分の性格や将来像と照らし合わすことができた。（看護学生 3 年） ・将来像について一緒に考えてくれた。（看護学生 3 年） 等
■進路選択・将来の参考になった
・なかなか聞けないような社会人生活での実際や、国家試験・実習での勉強について、先輩方にさまざまな質問をすることができた。（看護学生 3 年） ・ちょうど自分が気になっている大学の方がいて、その大学の詳細を詳しく知れたほか一対一で質問できてよかった。（高校生） 等
■「各自治体のお仕事相談ブース」の橋渡しをしてくれた
・各自治体のお仕事相談ブースで聞けなかったことを続けて聞くことが出来た。（看護学生 1 年） ・どんな質問にも丁寧に考えてくれていろいろ勉強になった。また、自分では答えられない質問はここのブースに行ってみればいいかもとアドバイスをしてくれて、頼もしかった。（看護学生 2 年） ・希望のブースが空いていなくて、なんでも相談ブースへ行くと、希望のブースに話を繋げてくれて、経験者の方と話ができた。とても良かった。（看護学生 3 年） 等

②不満だったところ（自由記述）

「やや満足」「やや不満」「不満」と回答した者のうち、不満に感じた理由で共通して見られた回答を抜粋した。「各自治体のお仕事相談ブース」と同様に「時間が短かった・足りなかった」という声が多かった。

■時間が短かった・足りなかった
・もう少しブースで話せる時間を増やして欲しかった。様々な所の保健師の話と自分の疑問について話せたので非常にためになる時間だった。（看護学生 2 年） 等
■対応する保健師の数を増やしてほしい

・保健師への相談希望者が多かったため、もう少し保健師の人数を増やしたほうが保健師の負担が少ないかと思う。(保健師資格を有し保健師以外の職種で就労中)　等

③参加しなかった理由（自由記述）(抜粋)

・参加したかったが時間が足りなかった。
・各自治体お仕事相談ブースで聞きたいことは大体聞けたため。相談したいことがなかった。

質問 7: 本イベントに参加して、自治体保健師の活動内容や魅力は伝わったか（単一回答）

「伝わった」(612 人、84.9%）が最も多く、次いで「やや伝わった」(103 人、14.3%）が多い。「やや伝わらなかった」は 4 人（0.6%)、「伝わらなかった」が 2 人（0.3%）となり、参加者の 9 割以上に魅力が伝わったものと考える。

質問 8: 本イベントに参加して、自治体保健師を目指したいと思ったか（単一回答）

520 人が「目指したいと思った」と回答しており(72.1%)、「どちらかといえば目指したいと思った」が 163 人（22.6%)、「どちらかといえば目指したいと思わなかった」が 8 人（1.1%)、「目指したいと思わなかった」が 3 人（0.4%)。「どれも当てはまらない」は 27 人（3.7%）であった。

質問 9：今後、同様のイベントが開催される場合、どのような規模での開催が良いか（単一回答）

「都道府県単位」を希望する人が 540 人（74.9%)、「地域ブロック単位（北海道・東北、関東、北陸信越・中部、近畿、中国・四国、九州・沖縄)」を希望する人が 109 人（15.1%)、「どちらでもよい」と回答した人が 66 人（9.2%)、「その他」は 6 人（0.8%）であった。

質問 10：今後、同様のイベントが開催される場合、どのような開催形式が良いか（単一回答）

「対面開催」が 373 人（51.7%)、「ハイブリッド開催（対面＋オンライン)」が 278 人（38.6%)、「オンライン開催」67 人（9.3%)、その他が 3 人(0.4%)。

質問 11：本イベントについてその他意見（自由記述）

以下、回答内容を分類し、共通して見られた回答の抜粋（前項までの回答と重複する内容を除く）

■全国での開催希望
・すてきな機会であったため、全都道府県で開催してほしい
■他の立場の人の話も聞きたい（新人・産業保健師など）
・自治体保健師の魅力が伝わり、保健師になりたい気持ちが深まった。他の保健師の話も聞きたいと思ったので、自治体だけでなく、学校保健師や産業保健師の話も聞く機会があるとありがたいと感じた。 ・新人または年数が浅い保健師の話も聞きたかった。歳が少し近く就職試験勉強でやったことなども覚えていると思うので、就職試験勉強や小論文、面接などの相談ができる企画があると嬉しい。 ・コロナで臨床を離れた看護師も多いと思うので、看護師から保健師への転職の方むけのイベントもあると嬉しい。 等
■開催方法について
・日程を空けられないという方もいるかもしれないため、ハイブリッド開催かつ申し込みをした方への動画の配信などを検討してもらえるとありがたい。 ・他の都道府県の自治体お仕事ブースにも参加してみたかったためオンラインでの参加も可能にして欲しい。 ・web イベントはどこに参加しても同じなのであれば、現地に行けない人もその web 動画だけをみられるようにして、対面で行くことができる人は地域のことについて具体的に質問ができるような形態でもいいのではないかと感じた。 等
■開催時期について
・大学と実家の所在地が異なるため、より多くの自治体の情報を知るためにも、都道府県ごとの開催の場合は日程をずらしての開催をしてもらえると助かる。 等
■相談ブース（参加内容）
・第二部で自治体ごとのブース相談会があったが、どちらかというと保健師になることを決めている方の就職説明会のようになっていたと感じたので、そもそも保健師教育を受けるかどうかを迷っている人に対しての相談ブースがあればいいなと思った。 等
■告知・広報について
・できることなら、どこの自治体の保健師と直接話ができるのかを事前に知らせてもらえると、その自治体の保健師に聞きたいことをまとめておいて、簡潔に質問できたと思った。 等
■保健師資格保有者から
・求人案内だけでは分からない詳しい内容が聞けて、とても参考になった。 等
■保護者から
・昨今子どもが就職後メンタルをやられてしまう事例が社会問題となっていて、大学 4 年の子を持つ親としては不安になるが、このような機会があることで、親の子どもの仕事に対する理解を深めることができて、親のサポート力も向上させていけると感じた。 等

2 ） 相談ブースアンケート結果（自治体、なんでも相談ブース）

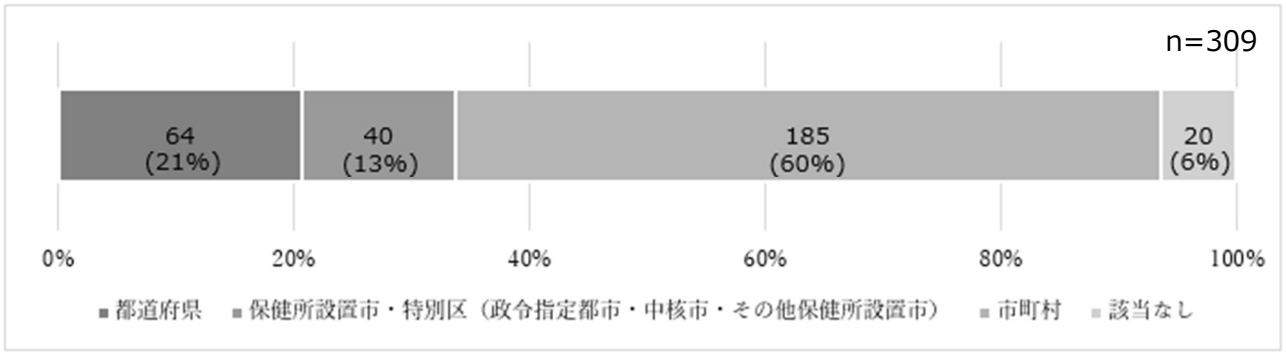
「各自治体のお仕事相談ブース」の保健師（各自治体より代表 1 名）及び「なんでも相談ブース」の対応者（全員）に回答を依頼した。その結果、合計 309 件の回答を得た。

・回答者の参加会場

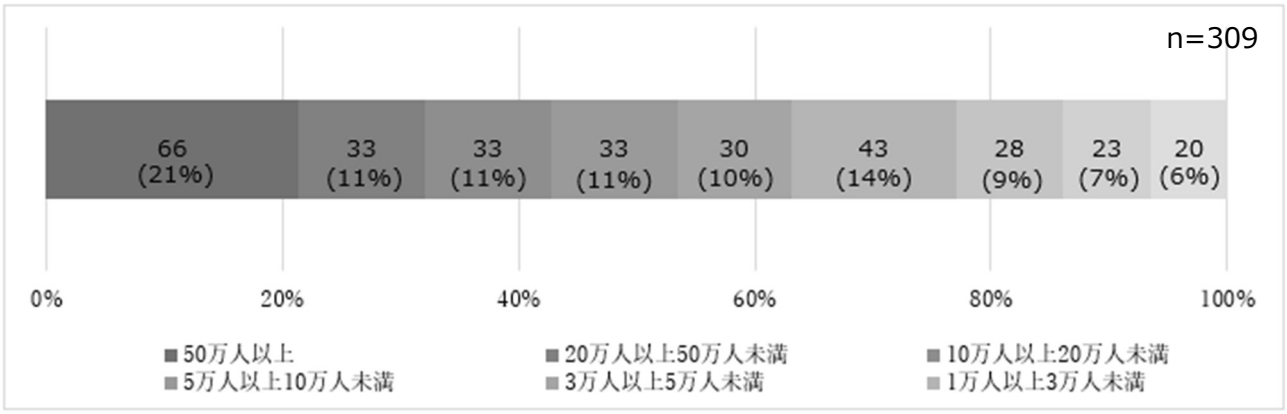
北海道・東北地区（43 人）						関東・甲信越地区（74 人）								東海・北陸地区（65 人）						
北海道	青森県	岩手県	秋田県	山形県	福島県	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	山梨県	長野県	富山県	石川県	福井県	岐阜県	静岡県	愛知県	三重県
10	5	4	5	6	13	0	4	7	20	11	4	13	7	8	8	11	6	6	12	15	7

近畿地区（43 人）						中国・四国地区（40 人）								九州・沖縄地区（44 人）								計
滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県	鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	徳島県	香川県	愛媛県	高知県	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県	
3	9	6	13	6	6	5	7	7	3	3	5	4	5	1	2	3	3	2	3	10	14	7	309

・自身の所属する自治体の種類



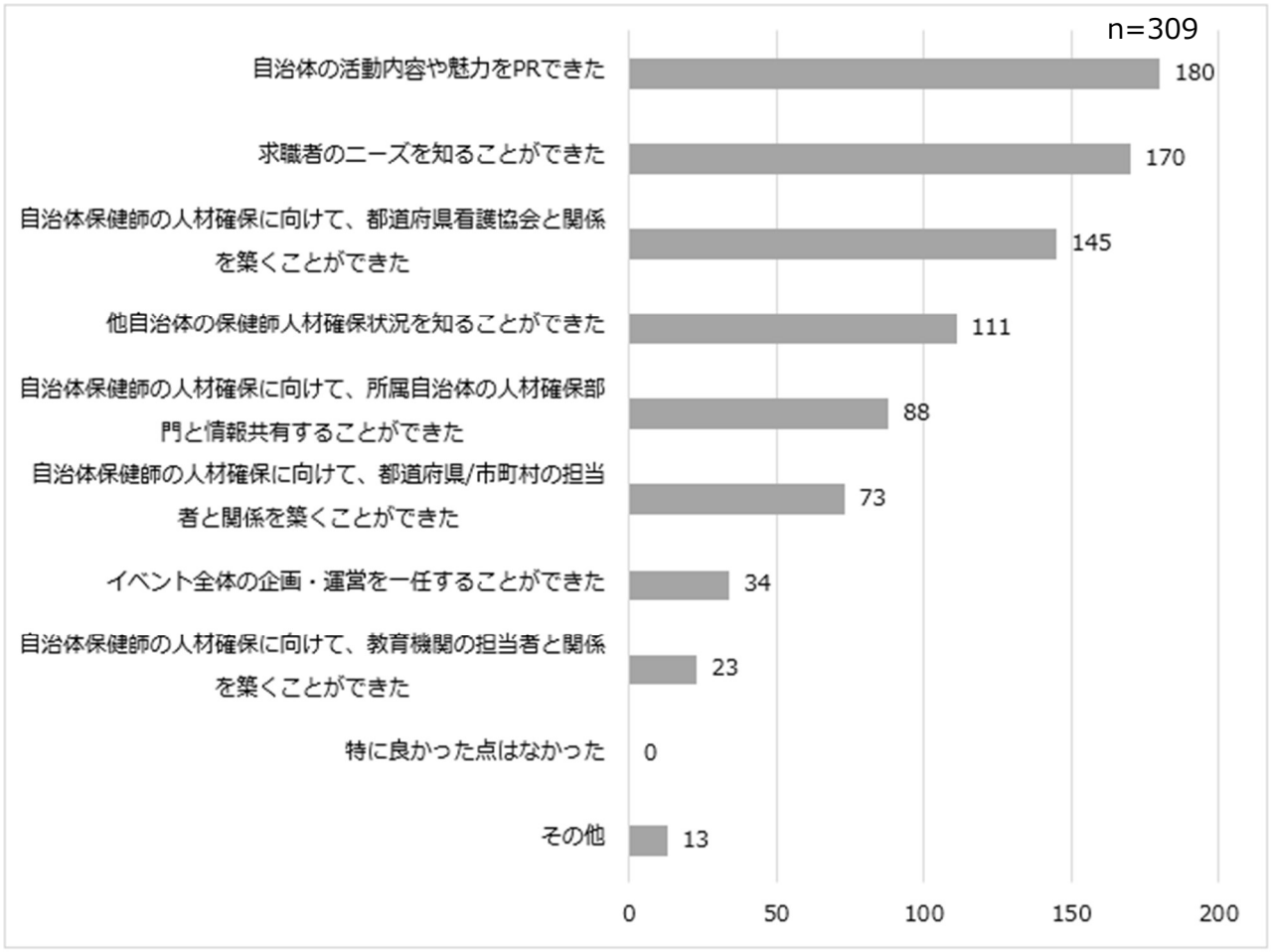
・自身の所属する自治体の人口規模



「各自治体のお仕事相談ブース」について

※「各自治体のお仕事相談ブース」に対応した保健師（各自治体より代表 1 名）のみ回答

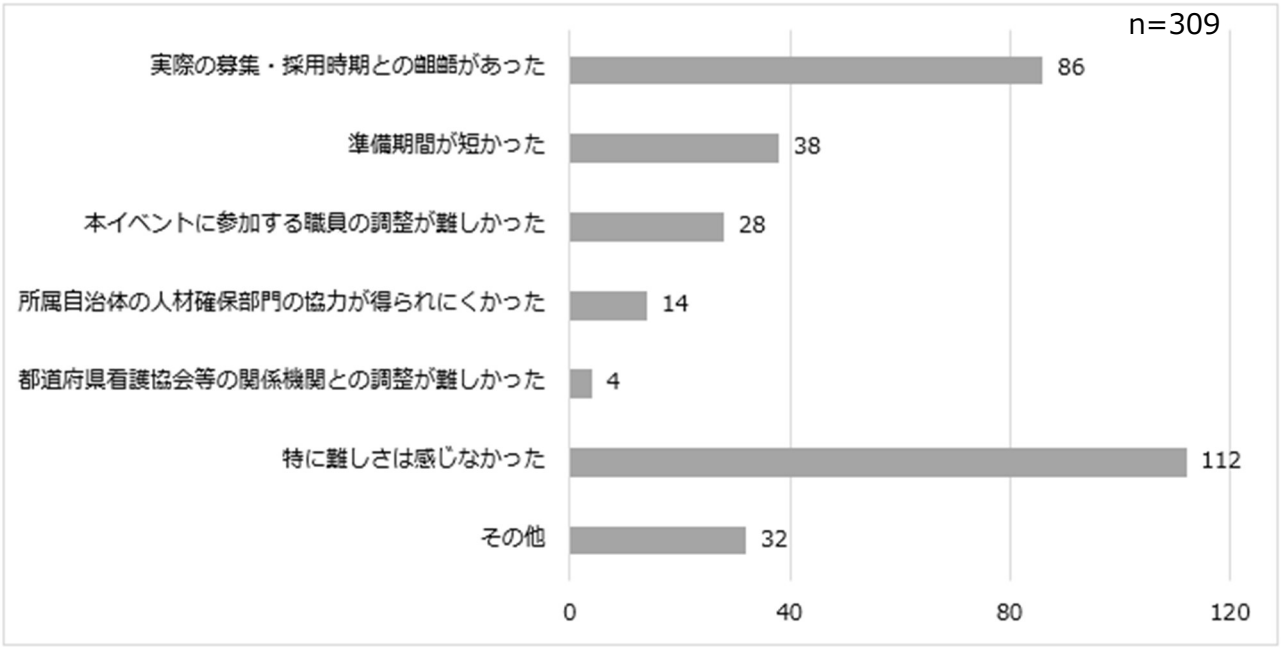
質問 1：本イベントへの参加を通して、良かったと思うこと（複数回答）



その他の内容（13 件）（自由記述）（共通して見られた回答の抜粋）

・他市町の人材確保の工夫を知り今後の対策を考える機会になった
・当町に住所がある学生に出会えた。
・本庁、公所の多数の保健師仲間と一緒に PR 動画を作成したことで、改めて所属の魅力や人材確保について考える機会となった。
・他自治体等の関係者と関係を築くところまではいかなかったが、市単独ではできないことを、県下、また大学の理解も得ながら協力してできたことは良かった。

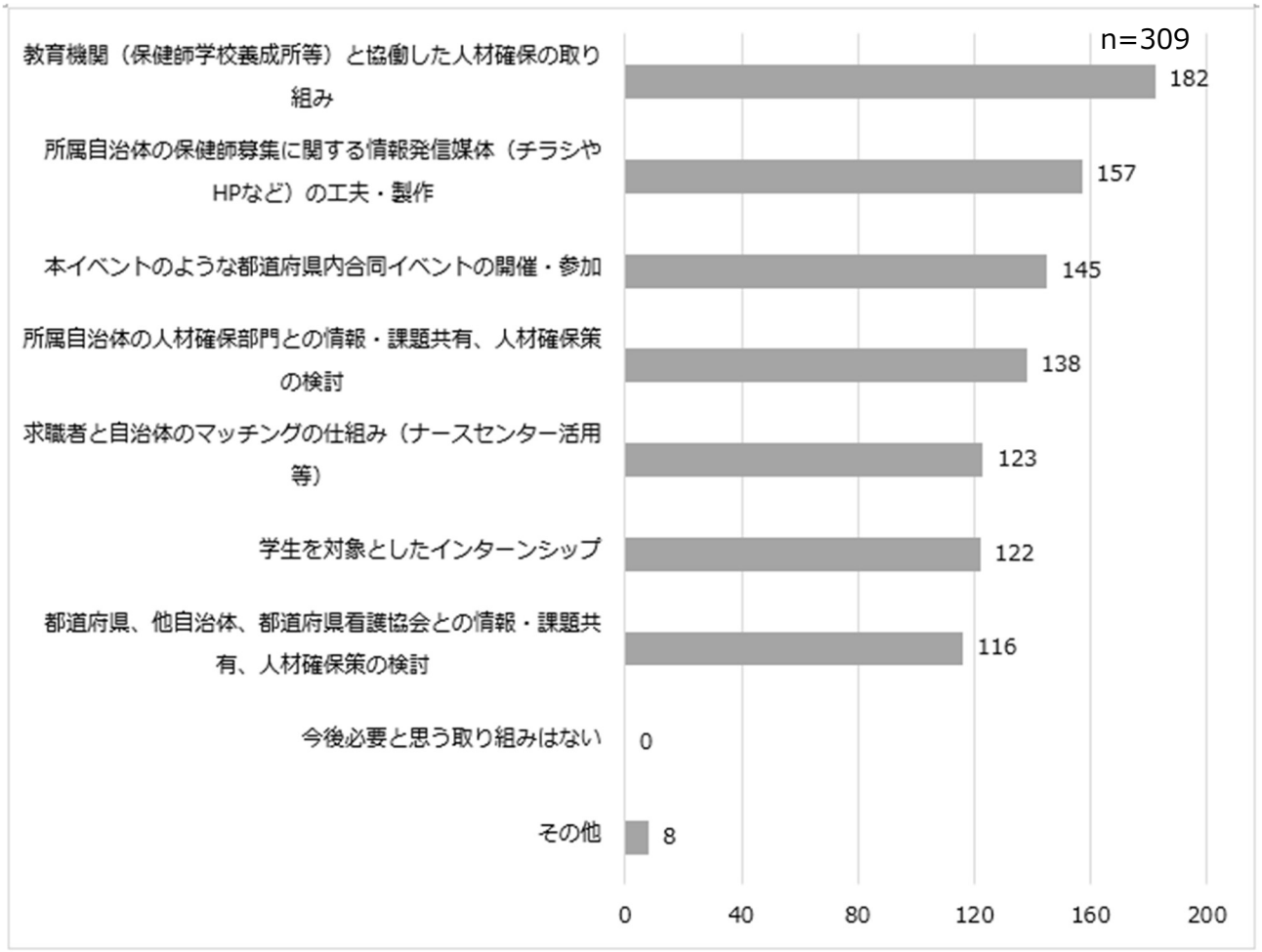
質問 2：本イベントへの参加に際して、難しさを感じたこと（複数回答）



その他の内容（32 件）（自由記述）（共通して見られた回答の抜粋）

・イベントでの相談対応の方法についてイメージがつかめず、どこまで準備をしてよいかわからなかった。PR をどのような形で行うか、看護協会と話をする機会がなかった。
・相談ブースを担当したが実際の自治体の待遇（給料、福利厚生など）は答えられないので事前に質問がある程度把握できていると良い。
・各グループに与えられた時間が短く、参加者からの質問に十分な回答ができなかった。
・参加学生がとても少なかった。
・県としては確保に難渋している小規模自治体（市町村）に参加していただきたかったが、市町村からは応募が 2 カ所しかなかった。休日ではなく平日開催の方が市町村としては職員を出しやすいのかもしれない。
・全体に向けた PR 時間などもないため、相談ブースが閑散としてしまった。
・当自治体に相談希望する学生以外の方に PR しにくいと感じた。
・時期的に 1,2 年生が主であったこと。即の採用に結びつきにくい。

質問 3：自治体保健師人材確保に向けて、今後必要と思う取り組みは何か（複数回答）



その他の内容（8 件）（自由記述）（共通して見られた回答の抜粋）

・小規模自治体の人気の無さを痛感。小規模ならではの強みを生かした保健事業を積極的に発信していくことが必要。
・採用可能年齢の引き上げ
・看護系に進む人材自体が減少しており今のように少ない人材を各市町村で取り合うこと自体を根本から考えなくてはならないため、国や都道府県レベルでの検討を望む。
・これから大学進学を目指す高校生へ保健師に興味を持ってもらえるような場があれば良い。保健師養成機関を巻き込んだ取り組み
・採用試験日の検討

質問 4：その他、本イベントに関する意見（自由記述）71 件

以下、回答内容を分類し、共通して見られた回答の抜粋。

■よかった点・継続希望

・今回のようなイベントは、自治体単独で実施することは難しく、また県内の自治体が合同で行う方が効果的な内容ため、今後も開催していただけるとありがたい。
・今の学生事情や他市町村の状況や所属の人事の状況もわかり有意義だった。
・当所に地域看護実習に来ていた学生の参加もあったが、実習中にはできない話もできてよかった。
・自治体保健師の人材確保に県、看護協会、自治体で共有できたことに意義を感じる。
・看護協会の職員に誘導をしてもらえたため、途切れることなく対応できて参加して良かったと感じた。
・来年度の採用を予定していないため参加しないという市町村もあったようだが、採用のあるなしにかかわらずそれぞれの自治体の活動を PR する良い機会なので、今後も継続してもらい、さらに多くの自治体が参加出来たり、県外の学生も気軽に参加できるよう充実されることを期待したい。 等

■次回に向けて

・イベント周知について出身大学の学生に聞くと掲示板への掲示のみだった。大学あてに周知し、担当の教員から学生へ情報提供できる仕組みが必要。
・参加者が興味のある自治体を自由に回るだけでなく、離島の自治体を〇か所回る、など少し条件を付けて回ってもらえると自治体側も学生と話せる機会が増えて良いのでは、と思った。
・参加者向けに自治体を PR するプレゼンの時間があってもよかった。
・自治体の人事担当部局にも連絡をしてもらうと自治体全体として取り組むきっかけとなる。
・参加者が学生 1 年目で、まだ保健師を目指すかのイメージがついていない方から看護職としての経験を生かして市町村で働きたい方まで幅が広く、一方の市町村は人材確保の思いが強く、温度差がかなりあったと感じた。事前の参加者状況を絞るか、せめて事前にわかっていれば市町村側も PR 方法の検討ができた。
・臨床看護に自信のない方が地域ならと安易に自治体保健師を選択している現状が少し垣間見えたため、就職後の早期離職を防ぐためにも、自治体保健師の業務が少しでもイメージ化できるのであればイベント開催は有効と思う。
・参加者がどのようなニーズを持っているのかを共有するため、最後に振り返りや情報共有の時間がある良い。
・開催時期を職員募集時期に合わせてほしい。 等

■その他

・同時期に他の同じようなタイトルのイベントがあり、わかりにくかった。
・本自治体の魅力を発信する場としては良かったが、相談ブースに来てくれる求人者が少なく人材確保には結びつきにくいと感じた。
・TV ドラマや映画等の影響は大きく、（中略）看護協会・自治体等でタイアップしてこれらの取り組みも進めていくことができればと感じる。 等

「なんでも相談ブース」について

※「なんでも相談ブース」対応者（全員）のみ回答

質問 1：「なんでも相談ブース」で寄せられた主な質問（自由記述） 160 件

以下、回答内容を分類し、共通して見られた回答の抜粋。

■自治体の就職活動、就職試験対策
・いつからどうやって公務員試験の勉強を始めたか、県と市町の採用試験の時期、県はどのような保健師を必要としているか。 ・就職活動、試験対策はいつから始めたか。どう対策したか。 ・応募先の市町村についてどのように知るか。 ・終身雇用が当たり前ではなくなっており、セカンドキャリアや転職が当たり前の時代になるが、自治体間での転職などを希望する場合に問題があるか。 ・既卒で保健師になりたいが既婚や子育て中であっても新卒保健師として勤めていけるか。 等
■自治体の業務内容、人材育成、やりがい等
・保健師の仕事の内容（イメージがつかない）、やりがい、保健師を志した理由と実際に働いての感想、市町村保健師を選んだ理由、保健師の適性について。 ・職場環境（働きやすさなど）、保健師の仕事でのやりがい、困難な場面での対応。 ・新任期の業務分担はどのように行っているか、プリセプターの配置はあるか。 ・新人期の保健師の研修体制について。 ・入庁後のジョブローテーション。 ・大都市と町村ではどのような違いがあるか。 ・保健師と看護師の違い。 等
■自治体の処遇（給与・福利厚生・人事異動等）
・給与形態・福利厚生。 ・土日祝日、残業、異動。 ・移住する場合の住居の確保。 ・保健師のワークライフバランスはどうなのか。 等
■看護師の業務経験の必要性
・保健師として働くにあたって看護師の臨床経験が必要か。 ・看護師経験ありとなしでは何が違うか。採用されやすいのはどちらか。 ・行政には新卒でないと採用してもらえないのか。 等
■都道府県と市町村の保健師業務の違い
・県と市町村で保健師の活動に違いはあるか。 ・保健師として働く場合、市町村と県どちらがよいか。 ・市町村の保健師はイメージできるが、都道府県の保健師の業務がイメージしにくい。 ・保健所と市町村の役割の違いについて。 等
■看護大学への編入、大学院や保健師養成課程等への進学
・大学看護学部３年次編入試について。 ・大学院に入る前に何を勉強しておけば良いか。

・大学での保健師専攻課程の勉強について。
・保健師資格がとれる専門学校はどこにあるか。 等

■その他

・自治体保健師、産業保健師等の活動の違い。
・インターンシップについて。
・助産師資格がある保健師の活動分野について。
・男性保健師の大変なところはどんなところか。 等

質問 2:「なんでも相談ブース」で参加者の相談に対応する中で特に印象に残ったこと（自由記述）157件

以下、回答内容を分類し、共通して見られた回答の抜粋。

■保健師への興味や関心について

・このようなイベントに参加するという気持ちがあるだけに、１・２年生のうちから、保健師を目指したいとの思いがあり、保健師の仕事に興味や関心を持っている学生が多かったこと。
・保健師に興味や関心が高く、熱心な学生が多かった。看護学校の学生は、保健師を目指すかどうか未定な段階だが、保健師の活動を具体的に知ることで、志願者のすそ野が広がるのではないかと感じた。
・保健師に関心のある方が参加しているので質問もとても活発だった。（目がイキイキしていた）
等

■保健師の仕事への理解について

・行政での保健師の役割を聞かれることが多く、保健師の業務を伝えることが難しかった。
・「何でも相談ブース」には、大学１年生の参加者が多かった。保健師に興味はあるが、公衆衛生学は、後期の授業で始まったばかりで保健師の仕事がイメージできず、自治体のブースに行く前に相談に来る方が複数みられた。
・自治体保健師については、どのような業務に対応しているか具体的なイメージで考えることが難しいと感じている学生が多かったと思う。今回のイベントで具体的なイメージを持つことができて良かったと言っていた。 等

■就活・就職ニーズについて

・自治体以外で保健師として働きたい学生が意外と多いが、就職活動や求人情報が少ない様子。
・看護師から保健師にと考えている人たちは、不安も迷いも強いが、相談先がなく、聞きたいことを聞けて良かったと明るい表情になった。
・学生（３年生）の参加者が多く、進路選択の機会として利用されているのが印象的だった。自治体保健師の業務内容はもちろんですが、昇給制度、休暇制度及び育児休業制度について紹介し、離職者が少なく年齢構成にばらつきが少ない点について、興味を持ってもらえていたように感じる。 等

■看護師経験の必要性について

・保健師採用になりやすいのは看護師経験者かどうか。
・保健師として就職する前に臨床の経験をしたほうが良いのか等、保健師として就業するためのスキル習得についても悩み考えている様子だった。 等

■就職試験について

・保健師として就職するか、するならばどう試験対策をしたかなど、就職前の活動についての質問が多かったことが印象に残った。
・4 月から 1 年課程の保健師学校に行くが、保健師の学習をしてない中で採用試験を受けることへの不安。
・３回生の時点で病院に内定をもらっている人の多さ。 等

■進路・進学について

・働く自治体の選択というより、保健師資格を取得すべきかどうかといった状態の学生が多かった。
・看護学生が保健師選抜等の試験を受ける前の時期に、保健師がどのような仕事をしているのか知る機会が少ない。
・看護専門学校１年生の人が、保健師になるためにはどんな勉強をしたらよいかという質問があったこと。 等

■自治体のＰＲや情報提供の必要性について

・自治体保健師の魅力アピール（WEB）を見て、興味がわいたという方がほとんどだった。
・相談ブースに来た参加者の方は、1,2 年生が多くまだ具体的な就職先はイメージがついていないであろうと感じた。いかに当自治体のことを知ってもらうかが必要であると感じた。
・都道府県、中核市、市町の役割の違いがイメージできて役に立ったとの意見。 等

■保健師教育課程の現状について

・看護大学に編入だと２年以上、今後、大学院へとの案も出ているので、資格取得が困難になってきているように感じた。
・自治体では保健師を必要としているが、学生は知らないことや進学（大学院）定員があり保健師になれるか不安を感じている。今後大学院への進学が容易でなく、保健師の人材不足が更に進むのではないかと不安になった。
・保健師になりたいが学校の選抜で成績上位でないと、保健師コースに進むことすらできない現状を知った。 等

■その他

・高校生から将来を見据えて、積極的に参加していたこと。
・3 年生や 4 年生よりも、1 年生や 2 年生の参加が多いことに驚いた。
・保健師の魅力発信は、少なくとも２年生をターゲットに実施すると保健師選択コースにエントリーに結びつけることができると思った。 等

質問 3 :「なんでも相談ブース」に参加した感想（自由記述）123 件

以下、回答内容を分類し、共通して見られた回答の抜粋。

■保健師の魅力を伝え、自ら振り返る機会

・これから新しく保健師になる方々が働きやすく続けやすい職場にするために、自分もこの仕事を楽しみながら続けていきたいと感じたし、「保健師の魅力」を意識しながら働いていきたいと思った。

・これまで採用試験以外の場で、保健師として自治体で働くことを考えている方と触れ合う機会が無かったため貴重な経験となった。 等

■自治体の魅力や現状を伝える機会

・各自治体のホームページ等の情報では得られないことを聞けてよかったという声が多数あり、このように対面で話すことによって就労のイメージがしやすく、就職や定職にとても有意義であると思う。 等

■学生の就業ニーズの把握

・1, 2 年生の看護学生の参加が多かったが、皆さん進路や仕事についてきちんとした考えを持っており頼もしく感じた。

・就職を希望する当事者達が、就職に向けてどのようなことを疑問に思い就職先や進路を選定する参考にしているのか知る機会になった。新規採用職員の 0JT にも活かせる情報かと思った。

・ライフワークバランスを重視した就職活動に世代間ギャップを感じた。

・離島、へき地保健師に対して興味があるが就職までは…と答えた方が多く、就職活動でどのようなものなのか聞きに来る方が殆ど。就職までは難しいと感じた。 等

■人材確保に繋がる場

・学生の素朴な疑問に、採用する側・面接する側としての準備や心構えを考える機会となった。

・参加自治体も人事担当者と一緒に参加しているところも多く、人事担当者が保健師を理解する場にもなったと思う。

・県や看護協会の紹介で当村に興味がなかった人にもアピールができてよかった。 等

■人材育成や現任教育を再考する機会

・学生の率直な質問を受け、今後の人材育成等に役立てることができると感じた。

・インターンシップの希望など、人材確保の取り組みの参考になった。

・学生が将来保健師として就職した際に、保健師になってよかったと思えるようなサポート（現任教育等）ができるよう、自分自身も努めたい。 等

■保健師への理解促進の必要性

・保健師の仕事を伝える工夫をもっとしていかないといけないと強く思った。

・看護専門学校や看護大学において保健師のことを全く学校で教えてもらったことがない状況であることがわかった。 等

■その他

・保健師として働くか看護師をするか、というような進路相談を希望する学生が多かった印象である。

・同じ職場で生涯勤務するという人生設計でない方の相談が主で、各自治体ブースでは相談しづらい内容だったため、なんでも相談ブースは必要だと思った。

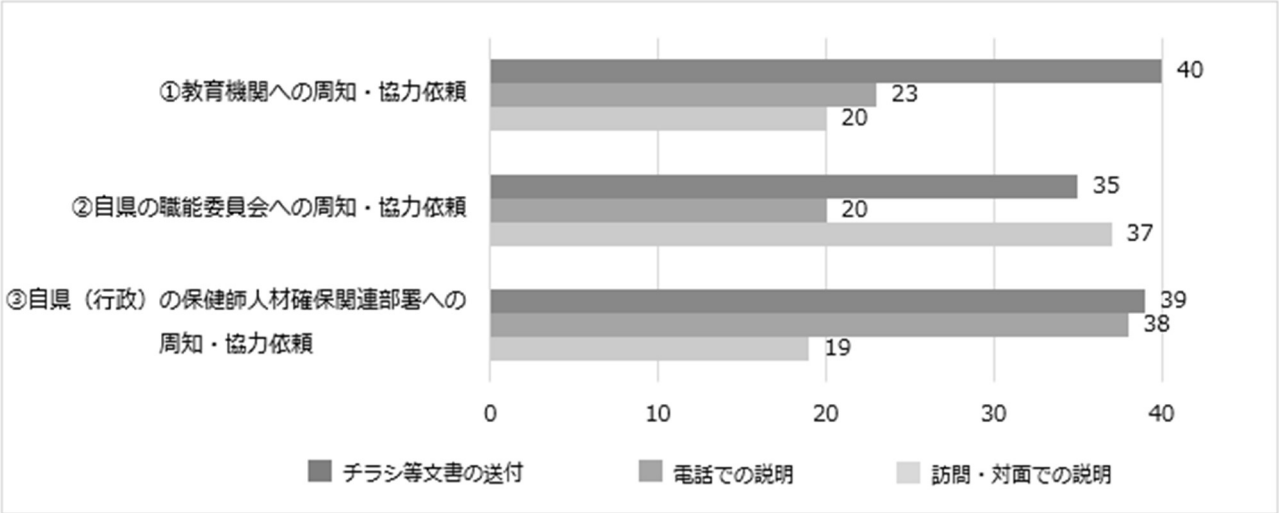
・なんでも相談として、ブースから離れ、自治体ブースに行かずに座っている人に声をかけたところ、どの自治体のブースに行ったらよいかわからないという方や県外への就職を希望し、自治体ブース

への訪問をためらっている方が何人かいた。その方たちの話を聞きながら、自治体ブースへの参加を促すという動きをしたが、効果的だったと思う。
・この事業の時に、県内の市町村の次年度の保健師募集一覧が資料として提供できればと思った。 等

3 ） 都道府県看護協会事業報告書

イベント参加者への周知・募集について

①周知・募集の際に実施したこと（周知・協力依頼先と方法）（複数回答）



②上記以外で工夫したことや、特に効果的と思われた取り組み（自由記述）

以下、回答内容を分類し、共通して見られた回答の抜粋。

■県協会等関係機関との事前打ち合わせの実施

・県(統括保健師)、保健師職能理事、専務理事(保健師)、看護協会事務局でイベントの打合せ会議により、役割分担、当日の運営等について検討した。

・この企画の開始前に事前打ち合わせとして、関係者間（県、職能委員、ナースセンター、特定町村担当協会職員）で調整会議を開催し役割分担を実施した。

・適宜、関係者へメールと電話で依頼し情報共有を行った。 等

■看護教育機関の会議を通じた周知

・日頃より各種事業を通じて交流のある大学の地域看護学教授及び看護師等養成所の教務主任等への周知・依頼を丁寧に行ったことにより、一定の参加者数を確保することができた。

・保健師養成機関連絡協議会において、県行政保健師、大学教員を通じて、周知・協力依頼した。

・本県では大学関係者、県、市町村、産業保健、看護行政、国保連合会、職能委員会等の代表者で構成された「県保健師連絡会議」を毎年度開催し、保健師活動を取り巻く情報の共有、課題の集約等を図っている。保健師人材の確保は本会議でも検討してきた経緯があり、本イベントについて保健師連絡会議で趣旨説明し協力を依頼することによって関係者の積極的な理解、協力につながった。等

■看護教育機関への文書送付や訪問等による依頼

・保健師・看護師養成教育機関へはメールでもイベント案内し、そのあとに電話して、学生への周知協力を再度依頼した。

・保健師職能委員から県内保健師養成大学へメールにて周知。保健師職能委員から、県庁 医師・看護師確保対策室へ周知を依頼し、県庁から県内看護師養成機関へメールにて周知した。

・会長自ら電話や対面で周知・協力依頼をしたことは、とても有効であったと思われる。教育機関へも出向き、保健師養成に係る課題等の生の声を聞くことが出来た。そのようなアナログな活動も必要ではないかと考えた。 等

■保健師教育担当教員への周知依頼

・大学への依頼はされていたが、担当教授が把握していないことがわかったため、再度看護協会から担当教授あてイベント開催の周知と参加者のとりまとめを依頼した。
・保健師・看護師養成教育機関への文書案内の宛先は地域看護学担当教授、就職支援担当者とした。（開催時期が進路相談・就職相談前であったら良かったが遅かった）等

■都道府県との連携による周知

・県と共催したことから、幅広い周知が可能となった。
・県からの周知文書の発出。
・県保健師会や県の担当者等に直接説明を行い、PR してもらった。
・県への周知協力を依頼した。（県から看護系大学への協力依頼、県の広報枠での紹介）
・会長・副会長・保健師職能委員長が、県行政及び県内の看護系大学への訪問を行い、事業の趣旨について説明し、参加を募った。
・県が実施する保健師等の研修会や会議等を活用し、事業の周知を図った。
・各保健福祉事務所の統括保健師に管内市町の状況をたずね、市町統括保健師にイベント参加について勧めてもらった。 等

■都道府県教育委員会（高校）との連携

・県教育委員会の了解を得、県内高等学校の進路指導担当教諭あてに文書案内した。
・県教育庁の協力を得て、県内高校への周知を図った。
・県内保健師養成所のみならず、高校にも案内をした。 等

■広報媒体の作成

・自治体に A4 1 枚程度のアピールポイントなど紹介シート作製を依頼した。
・看護協会独自のリーフレットを作成し配布した。
・冊子を併せて作成したところブースを設置しない市町村から掲載希望が想定より多かった。 等

■ナースセンターや他事業との協働

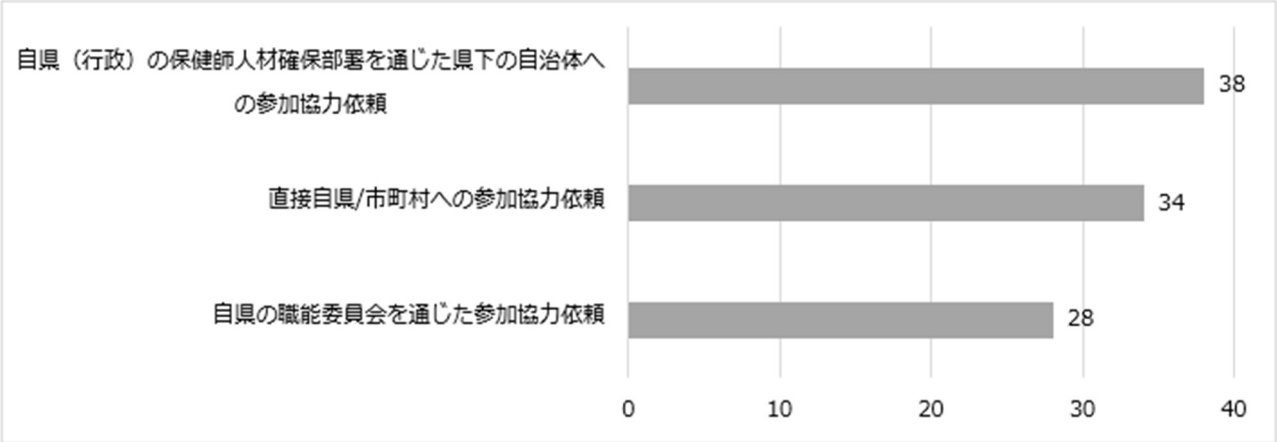
・「潜在保健師の就労支援のための研修会」と併せて開催することとし、e ナースセンター登録保健師に対しても文書を送付した。
・自治体保健師の魅力発信イベントだけでは、集客が見込めないとの判断のうえ、本会主催の「合同進学就職説明会」と同日に実施することとした。
・ナースセンターが看護学校で行う職業紹介事業や会長が参加する学校の会議においてチラシを配布し、参加をお願いした。 等

■ソーシャルメディアの活用

・日本看護協会公式サイトでの募集終了後、本会ホームページから直接申込ができるようにした。
・SNS、ホームページにより広報を行った。
・リモート相談を取り入れ、来場が難しい遠方からの相談者に対応できるようにし、参加を促した。等

「自治体保健師のお仕事相談ブース」参加自治体の募集について

①募集の際に実施したこと（参加・協力依頼先）（複数回答）



②協力依頼に際して工夫したことや、特に効果的と思われた取り組み（自由記述）

以下、回答内容を分類し、共通して見られた回答の抜粋。

■協会の役員、職能委員等による丁寧な説明・ＰＲ
・職能委員と、県の担当者に依頼し応募した。 ・電話で本会役職員が直接自治体の採用窓口や保健センターなどへ参加の依頼をした。 ・自治体の参加募集は、２回のチラシ送付を行ったが参加を希望する自治体はわずかだった。そのため、保健師職能委員や、役員を通して所属する自治体への参加協力、関連団体での広報などを行ってもらい、２０自治体の参加が実現できた。 ・保健師職能委員会にイベントについて説明を行い、協力を依頼した。その後タイムリーに取り組み状況等について経過報告（第１報～第３報）を行い、情報を共有した。 等
■都道府県を通じた市町村への参加依頼
・全市町村に依頼文書を発出後、県行政や保健師職能委員会から保健師採用が難しい自治体を聞き、ピンポイントで該当市町村に保健師職能理事とともに電話等で参加を依頼した。 ・県の統括保健師及び保健師職能委員を通じて、保健師確保に向けて県内市町村に呼び掛けた。 等
■都道府県統括保健師から市町村統括保健師への声かけ
・本会専務理事や保健師職能理事から各市町村の統括保健師に個別依頼したことにより、参加自治体を確保することができた。 ・県の統括保健師から市町の統括保健師(担当)へメールでイベントの周知案内をお願いした。 ・県の保健師人材確保部署及び統括保健師の協力を得たことで採用予定市町村の情報を得ることができ、相談ブース設置自治体に直接アプローチできた。 等
■保健師採用に苦慮している自治体への参加勧奨
・全市町村に依頼文書を発出後、県行政や保健師職能委員会から保健師採用が難しい自治体を聞き、ピンポイントで該当市町村に保健師職能理事とともに電話等で参加を依頼した。 ・県へ令和 7 年度保健師採用予定のある自治体への参加呼びかけを依頼し、県より保健師確保に困っている 10 自治体と県、合計 11 自治体の参加報告を受けた。いずれの自治体も「学生への働きかけがなかなかできなかったので、良い機会と得た」と前向きに取り組み、保健師魅力発信事業の必要性を感じることができた。

・職能委員からそれぞれの地区で人材確保困難である市町村に直接声掛けをしてもらった。 等

■ブースの運営等の支援・協力

・小規模自治体では本イベントに対応するノウハウがあまりないことから、当会で十分に準備することや当日支援もすることを伝え、参加を決定した自治体があった。
・会場のキャパの関係上、県内全市町村に声掛けは難しいとの判断のうえ、県市町村保健師連絡協議会に協力依頼をし、県内 4 ブロックに分けて、相談を受けていただけるよう自治体保健師を派遣してもらった。
・参加の意向を表明した自治体職員と、イベントに向け事前 ZOOM 会議を開催し、当日の流れや準備事項などを丁寧に確認した。
・参加自治体には、イベント開始前に当日の流れについて説明し、相談会についてイメージしてもらえた。相談者の割り振りについては、相談の内容によって誰が相談を受けるのが効果的であるかを各自治体の保健師で担当を決めてもらい、相談者の人数配分も行ったことで、相談者を待たせることなく相談に繋げることが出来た。相談者からも満足している旨の言葉もあった。 等

■ナースセンターとの連携

・ナースセンターを活用し、ｅ‐ナースセンター・とどけるん登録者へ一斉メールを行ったことにより、８人ではあるが、有資格者の参加があった。
・ナースセンターのブースを設置した。参加者からの相談対応を行い、関心のある自治体の求人情報を提供したり、求人票の見方を教えるなど参加者に活用していただいた。今回、学生や求職中の方数名がナースセンター登録され、自治体へもナースセンターを PR する機会となった。
・ナースセンターへ非常勤保健師等の求人募集情報を提供して頂き、その自治体へ打診し、参加してもらった。 等

■その他

・全市町村に周知し、参加申込及び会場参加が困難な市町村に対してパンフレット等の配置のみの希望を受け付けした。
・看護学生の関心を高めるために、Facebook2 回、インスタグラム 4 回、かんごちゃんの人形を使用し、動画で配信した。 等

当日のプログラムについて

本会提示のプログラム以外に実施したことや、運営上で工夫したこと（自由記述）

以下、回答内容を分類し、共通して見られた回答の抜粋。

■自治体との事前の説明・打合せ・準備

・参加自治体へオンラインでイベントの説明会を開き、想定される質問内容への準備、グッズの準備を促した。

・より良いイベントにするため、県との打合せ、ナースセンターとの担当者会議を重ねた。

・県内の特徴を活かして、保健師養成課程を持つ大学の協力を得て、協会の他に大学にも会場を設けた。 等

■参加者の事前質問へ対応準備・対応

・時間を有効に使用するために、参加者からの主な質問内容を事前に自治体へ 情報提供していたことで、自治体側も質問に対して効率的に回答できた。

・事前にとっていた質問で共通しているものについては、効率的に相談を進めるために、ブースでの相談に入る前に、全体で職能委員から経験を交えながら回答した。 等

■自治体保健師の活動紹介・ＰＲ

・「自治体保健師からのメッセージ」をテーマとした講演を取入れ、開催地域の特性を踏まえた内容のメッセージを直接会場で受け取れるよう工夫した。

・日本看護協会の動画視聴のあと、参加自治体すべてに、約 10 分間プレゼンテーションをしてもらい、魅力をアピールしてもらった。参加できない自治体からも、保健師の魅力発信（自施設のアピールポイント）を送ってもらい、リーフレットを作成した。当日会場で参加者に配布した。

・第二部の相談ブースを開始する前に、座談会形式で各自治体から保健師活動の特徴や求める保健師人材等について話してもらう時間を設けた。 等

■待ち時間や偏りをなくす工夫

・座談会形式で各自治体から保健師活動の特徴や求める保健師人材等について話してもらう時間を設けた。

・参加者がより多くの自治体ブースを訪問できるよう、6 自治体なので 6 グループに分け、ローテーション形式で回ってもらい効果的だった。（小規模自治体では訪問者が無いことを危惧していたがしっかり説明できた）

・「各自治体のお仕事相談ブース」等多くのブースに参加してもらうようスタンプラリーとし、参加賞及びスタンプラリーの景品を用意した。 等

■相談方法の工夫

・参加学生等がすべての自治体ブースを巡廻して保健活動の特徴を聞ける設定とし、一巡後はフリータイムとし、各ブースで自由に相談できる時間を設けた。

・個別相談の状況を踏まえ、2～3 人程度のグループになって各ブースを回ってもらった。友人の質問を聞く中で、相談者に尋ねたいことが明らかになったという参加者もいた。

・県外や遠方で来場が困難な方が相談できるようリモート相談ブースを用意し、4 名の利用があった。等

■会場レイアウトやブース設営、雰囲気づくりの工夫

・相談会場をホール１か所で行ったことで、多くの自治体の話を聞けるようにした。二次保健医療圏

を活用した配置とし、近い地域を回りやすくする工夫をした。
・会場設営では相談ブースを半円状に設置し、パブリックビューイング後は中央に設置した飲み物コーナーで相談の順番待ちできるようにし、参加者の交流・憩いも図った。
・相談会場の設営は、各自治体名を印字して卓上上り旗、椅子カバー、かながわかんごちゃんが印刷されたエコバックを作成し、統一感を持たせた。
・保健師への進学を目指す学生を対象に進学について説明するブースを設置した。 等

■参加できなかった自治体の情報提供

・参加できなかった自治体から提供された資料（保健師活動資料、観光パンフレット等）を資料コーナーに設置した。閲覧していた方々が多かった。
・あらかじめ市町村に紹介シート作成を依頼していたので、参加できなかった市町村に関してはシートを活用することができた。
・県の「保健師就学資金貸付事業のご案内」や自治体の就職情報等を配布資料として提供した。 等

■ナースセンターや他事業との合同開催等

・学生の時からナースセンターを知ってもらう、あるいは自治体担当者にナースセンターを理解してもらうために、ナースセンターの相談コーナーを設けた。
・看護職マッチングフェアを同日１４時３０分から開催し、県内医療機関や訪問看護ステーションの取組も知ってもらうことが出来た。 等

■その他

・駅近くの会場とし、利便性を図った。
・参加者の動機や会場への交通手段等について把握し、次年度の開催会場を検討する際の参考にすることとした。 等

今後のイベント開催について

今後、県協会において同様のイベントを企画・実施する場合に、想定される課題や対応策として考えられること（自由記述）

以下、回答内容を分類し、共通して見られた回答の抜粋。

■自治体採用時期や学生の進路決定時期を考慮した開催時期の検討

・大学の学生が保健師を目指すきっかけとしてもらうためには、できるだけ早い時期と進路を決定していく時期の両方を考慮して開催する方が効果的だと思った。
・開催時期は自治体の採用試験などを配慮した時期であると、参加を促しやすいのではないか。
・県主催の自治体保健師合同就職説明会を８月に開催していたので、今後、同様のイベントの開催時期は採用試験の時期や県外の大学等に進学した学生が帰省しやすい時期を考慮して決めたい。 等

■自治体の保健師活動の特徴が伝わるような情報の提供

・相談対応に、 2・3 年目若い保健師が対応すると身近で、今の学生生活のことも含めて話ができるのでいいと思われる。
・参加者は規模の大きな自治体への関心が高く、小規模自治体への関心が薄い傾向にある。小規模自治体に関心を持ってもらうための更なる仕掛けや工夫が必要。
・日本看護協会の動画は配信したが、 対面で保健師から直接話を聞くことが効果的である。
・全国を対象に同時開催するメリットは、県外の学校に進学した学生が県内の自治体の活動を知ることであるので、学生が希望する会場にアクセスし参加できる仕組みがあるとよい。
・高校生にわかりやすい保健師のお仕事の PR 資料作成が必要である。 等

■対象者のニーズに合わせた開催場所、内容、方法の検討

・学生が参加しやすい会場の選定が課題。公共交通の利用が便利で、パブリックビューイングや相談ブースを設営できる会場の確保に当たっては、開催日は半年前までには決まっているとよい。
・看護協会看護研修センターを会場にして実施したが、看護協会の立地場所にもよると思うが、看護学生等を対象にするのであれば、看護師等養成所を会場にした方が効果的であったのではと感じた。
・保健師養成大学からは、当日の様子の動画提供を求める声もあったため、今後は、ハイブリッド開催や録画等の検討も必要。
・リレートークと相談ブースが同時進行であったため、プログラムの見直しが必要。
・「自治体保健師との相談会」では、各自治体によって、説明時間がまちまちでスムーズに流れないところも見られたので、時間を区切って入れ替え制にしてもよかったのかもと考える。「自治体保健師との相談会」の時間をもっと長くとった方が良さそうであった。等

■看護関係機関との連携による広報や参加の促進

・学生への広報については、学生と身近に関わっている先生の協力を得る。
・９割が県内からの参加者であったことからも、大学、養成所等の協力を得て周知することができるのではないかと思った。県外者への周知については、今回のように日本看護協会で周知いただけたらありがたいが、企画実施は各県の特色を活かした内容にしたほうが良いのではないかと思った。
・参加者募集は看護学校養成校や看護系大学に直接取りまとめを依頼する。 等

■自治体との連携・協力による開催

・看護協会主催はよいが、県との共催も必要と思う。

・今回は、時間的な制約もあり、行政と連携して数回広報を行い、参加者を公募した。特に保健師の活動や、人材確保に関連する事項については、行政の協力は欠かせないため、 イベント開催される場合、行政への情報発信を徹底する。
・参加自治体の募集文書は、自治体の文書受取先をどの部署にするのかにより効果が違ってくることが参加自治体より情報収集できた。次回開催時にはどこに通知するとよいかを事前に市町に確認したうえで周知を図りたい。（人事をつかさどる総務部内または保健師統括）
・現場の保健師の方は、自分たちの職能の理解を得られるいい機会と捉えられたが、行政の事務職の方が、募集をしていないから参加しないという反応だったので、今後は行政事務職にも趣旨を理解していただくことが必要。
・保健師の会員が少ないため未入会自治体への周知方法の工夫が必要。 等

■自治体の採用・確保の状況を踏まえた企画運営

・自治体によって、採用の予定がはっきりしないと、参加してもらうことが難しい。
・保健師は、人材不足と感じていても、自治体が採用をしてくれないとの意見も多かった。
・都市部の大規模自治体では、募集数以上に応募があるため、積極的な参加が難しい（必要性を感じていない）
・保健師の人材確保については、県内でも政令市や都市部、中山間地域などにより状況が大きく異なる。まずは県と連携を取りながら採用実態等を把握するとともに、保健師・看護師養成機関側のニーズについても、事前に把握する必要がある。 等

■予算やマンパワーの確保

・参加自治体や学生等の参加者の数が大幅に増加した場合には、マンパワーを含め実施体制を整えることが課題だと考える。
・人材確保の視点では有用であるが、費用負担（持ち出し）が多過ぎることが課題であり実施は難しい。
・会場は県中央近くで駅に近い会場設定が必要となり、予算的にも拡充が必要である。
・ナースセンター事業として県から委託を受けるなど、予算が確保できないと実施が厳しい。等

■就職や進学関連事業とのコラボによる開催

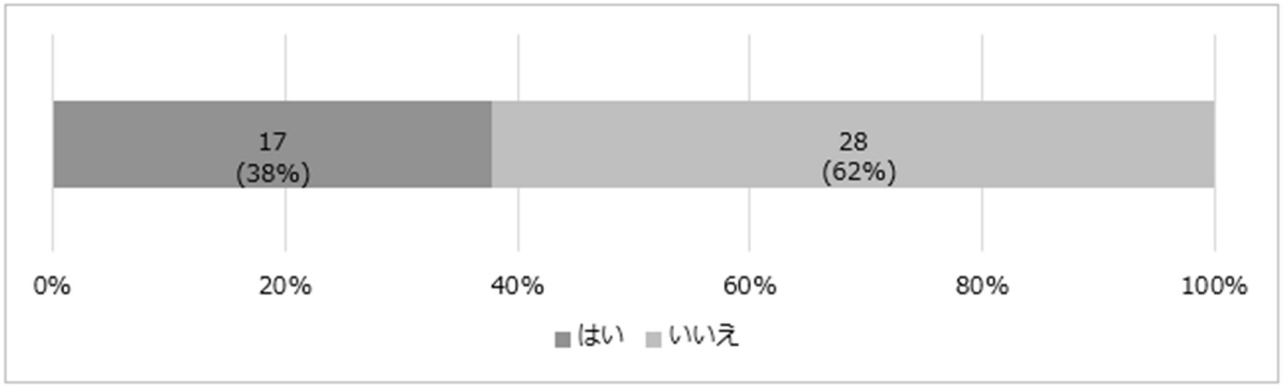
・自治体保健師だけでは、集客が見込めない。その他の業種も含めたイベントにし、さまざまな選択肢があることで集客しないと厳しい。
・ナースセンターで行っているイベント、県での動き等、調整の上計画的に開催できることが望ましい。
・県内では、看護学生を対象にした職場体験、ガイダンスは既に実施している。今後、実施するのであれば、県・市町村、教育機関、国保連合会等関係機関と協議し、既存の事業と棲み分けし、効果的な方法等を検討した取組みが（時期、開催内容等の検討）が必要である。 等

■その他

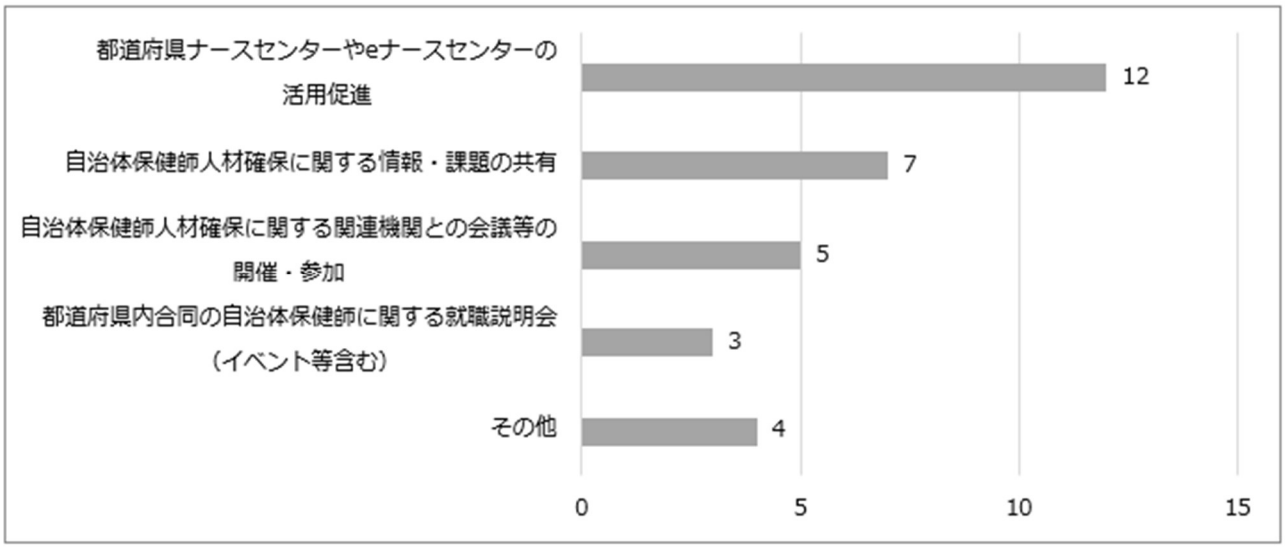
・保健師の魅力発信と自治体紹介に終始したが、参加者も多くいたことから、紹介ブースや展示等の中で看護協会入会促進を実施してもよかった。
・イベントの内容は自治体保健師から評価が高く、来年度の開催希望あり。 等

自治体保健師人材確保に関する取り組み

①本イベントの他に、県協会において、自治体保健師の人材確保に関する取り組みをしているか

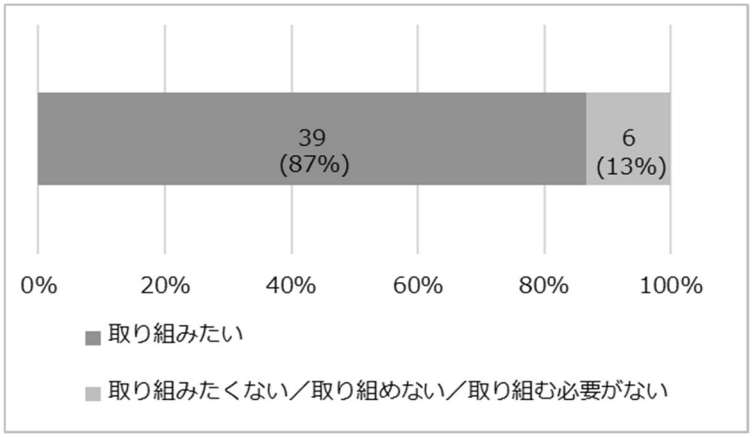


どのような取り組みをしているか（①で「はい」と答えた方のみ、複数回答）

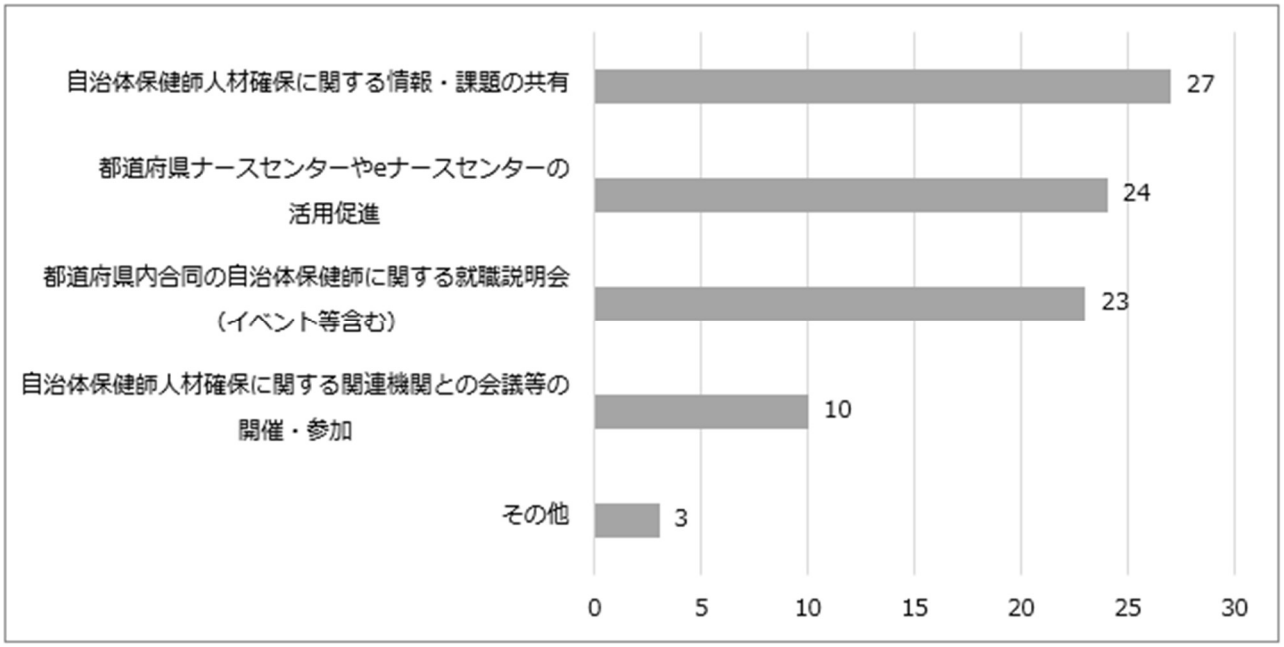


その他 （自由記述）	潜在保健師の就労支援のための研修会
	保健師職能委員会が保健師確保対策のシンポジウムを開催
	保健師職能による「保健師の人材による実態調査」の実施
	県協会保健師職能施設代表者・個人会員名簿の作成による情報発信等
	「保健師へ GO!!」のパンフレットの作成による周知
	「看護への道フェア」において自治体に限らず保健師の魅力発信の取組みを行っている

②今後、自治体保健師の人材確保に向けて（引き続き）取り組みたいと思うか



今後（または引き続き）取り組みたいと思うことについて
（②で「取り組みたい」と答えた方のみ、複数回答）



その他	学校連絡協議会との連携
	保健師職能委員の協力
	保健師職能委員会活動

「取り組みたくない／取り組めない／取り組む必要がない」と思う理由（自由記述）

理由	協会の限られた予算内で新規事業として予算措置が難しいため。
	スタッフの人員不足
	自治体保健師に特化したものでなく、保健師の人材確保として取り組む必要を感じている。
	県主催でほぼ同内容の自治体保健師に関する就職説明会が実施されているため、市町村の参加(お仕事相談ブース)への参加がないため
	自治体保健師の人材確保は県行政が行うべきだ。

その他本事業に関する意見（自由記述）

以下、回答内容を分類し、共通して見られた回答の抜粋。（前項までで重複する内容を除く）

■保健師を目指す学生への動機づけについて

・各自治体がブースに工夫を凝らし特徴を最大限にアピールする姿は、今年度のテーマにある「魅力発信」に合致していたと感じる。

・保健師について興味はあるがイメージができないため来場してくれた学生も数名いた。質問者のイメージする保健師像とこちらの感じている保健師像を刷り合わせながら質問に答えていくのは、このような機会がないと難しいと感じたため、学生にとっていい機会になったのではないかと感じた。

・学生、自治体保健師、学校（教員）と三者にとって実のあるイベントとなった。今後もこのようなイベントを機に保健師を含めた看護職の魅力を発信し看護を目指す学生が増える活動が必要だと思った。 等

■自治体間の採用や活動情報の共有について

・今回の事業を通じ、各自治体の保健師採用状況や活動の実際についての情報共有を行うことができ良い機会となった。

・自治体ごとの活動の特徴を知る機会となり、ナースセンターでの職員募集の際には、自治体ごとの活動の特徴が伝わりやすい求人票作成の支援に繋げたいと思う。

・保健師数が少ない自治体でも人材育成体制を見える化することは人材確保のアピールになる。 等

■本会と都道府県協会との調整や効率的な事業運営について

・年度途中に開催決定したイベントであったため、他の事業との調整を行わなわなければならず、県看護協会としての開催の必要性を検討する時間や、計画的な開催とするための準備期間が十分ではなかった。

・日看協でチラシ、申込集約、アンケート等を準備いただいたので効率的に運営できた。

・看護師養成施設へ送付したチラシに全国統一の開催日が掲載されてり、開催日の異なる県については、誤解が生じた。 等

■事業の実施方法（時期・方法・内容）について

・看護学生を対象にするのであれば、開催時期を考慮する必要があったと思う。さらに開催方法も対面だけではなく WEB 開催を導入したほうがよい。

・オンデマンドを集まって視聴するというのは学生にとってはハードルが高いのかなという気がする。直接、相談ブースを設けていただけるのはありがたいが、そこを利用したい学生も限られるのかなと思う。すそ野を広げるのであれば、令和 4 年度の地域保健シンポジウム同様、各自が好きなところで配信を見られる方法が良いと思う。

・前半の自治体（都道府県、市区町村）保健師からの報告は、ベテラン世代より若手世代のほうが好評であった。今後は 20～30 歳代保健師による報告を期待したい。

・産業の分野は学校での教育も以前より充実してきているようだが、実際の就職については情報があまりなかったり、イメージが湧かないのかなと感じた。今後の流れも見ながら、産業分野の情報発信についても検討が必要になると感じた。 等

■自治体との連携について

・自治体によっては、「次年度の採用予定がないため不参加」と回答した所が複数あった。次年度採用

枠に限らず、次々年度以降に就職活動を行う学生の参加がある可能性を踏まえ、自治体の魅力や保健師の仕事について広く知ってもらうという観点での参加を促したが、それでも参加できなかった自治体もあった。自治体側は「今すぐ」もしくは「次年度」就職活動する学生・保健師資格保有者との接触を希望しているようだった。

・必要な担当部署に確実に届ける仕組みがあればと思うと共に、県行政における主体的な関わりがあれば、このイベント事業はもっと有意義なものになったと思われる。

・自治体主催研修が望ましいのではないか。 等

■その他について

・高校生、中学生向けの「保健師のお仕事」のチラシ、DVD 等の作成。マスメディア等を活用した「わかりやすい、魅力ある保健師のお仕事」の PR。

・新型コロナ感染症において、保健師の活躍は全国に周知された。今回の能登半島地震等の自然災害においても、保健師は長い支援をしている。自然災害時における保健師活動について、全国発信が積極的にあるとよい。

・担当の所管部が明確にないため、保健師職能委員の協力を得て実施。どのような体制で実施するかが課題。 等

参考資料

県協会独自の周知媒体資料	奈良県看護協会	・・・・・・・・・・・ P81
プログラム	京都府看護協会	・・・・・・・・・・・ P81
自治体保健師の活動紹介・ＰＲ	富山県看護協会	・・・・・・・・・・ P82
ナースセンターブース	宮崎県看護協会	・・・・・・・・・・ P82
スタンプラリー	京都府看護協会	・・・・・・・・・・ P82
相談時間を増やす工夫	奈良県看護協会	・・・・・・・・・・ P83
会場レイアウトの工夫	石川県看護協会	・・・・・・・・・・ P83
相談ブース装飾の工夫	福井県看護協会	・・・・・・・・・・ P84
	岩手県看護協会	・・・・・・・・・・ P84
	岐阜県看護協会	・・・・・・・・・・ P84
	奈良県看護溶解	・・・・・・・・・・ P84
	山梨県看護協会	・・・・・・・・・・ P84
	神奈川県看護協会	・・・・・・・・・・ P84
参加できなかった自治体の情報提供	山梨県看護協会	・・・・・・・・・・ P85
関連資料の配布	石川県看護協会	・・・・・・・・・・ P85

■県協会独自の周知媒体資料

奈良県看護協会作成のチラシ

■プログラム

京都府看護協会

■自治体保健師の活動紹介・ＰＲ

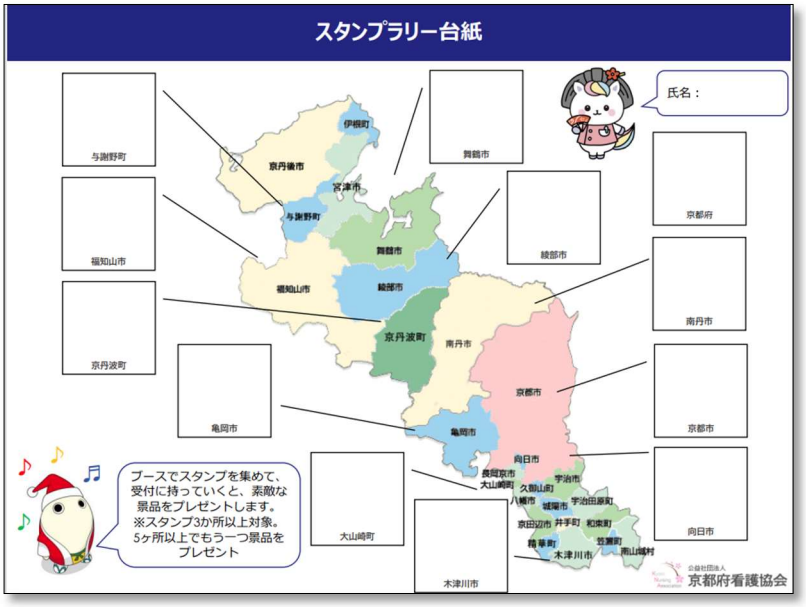
富山県看護協会

■ナースセンターブース

宮崎県看護協会

■スタンプラリー

京都府看護協会



■相談時間を増やす工夫

奈良県看護協会：集合形式で自治体の説明

■会場レイアウトの工夫

石川県看護協会：相談待機（喫茶）スペース

■相談ブース装飾の工夫

福井県看護協会：のぼり

岩手県看護協会：のぼり

岐阜県看護協会：ホワイトボード

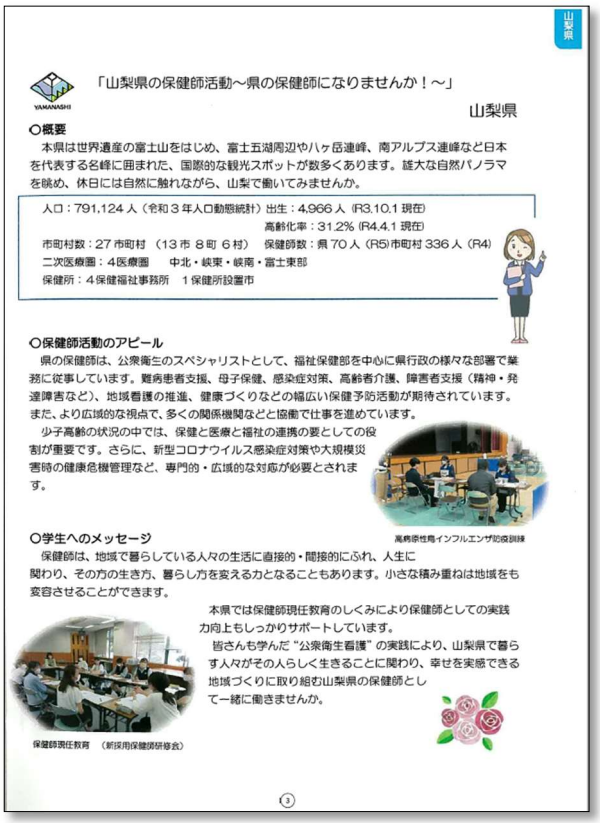
奈良県看護協会：パネル

山梨県看護協会：かんごちゃん

神奈川県看護協会：エコバッグ

■参加できなかった自治体の情報提供

山梨県看護協会：保健師の活動紹介パンフレット



■関連資料の配布

石川県看護協会：保健師の活動紹介パンフレット